

# 中国・四国空中花粉研究会誌

Annual report of Chugoku-Shikoku Airborne pollen Society

香川県  
自然記念物  
二宮のネズ

第 25 号  
2014年12月

## もくじ

巻頭言（難波弘行）	p 1
論文	
市谷年弘： ザゼンソウとミズバショウの花について	p 2
難波弘行，渡辺浩文，小山敏章，板野久実子，山本直樹，名部誠： 岡山県におけるヒノキ科花粉飛散状況と2015年の飛散予測	p 3
岡田啓司，豊田芳彦，石田制利，清水秀樹，宮野良隆，山口巧，難波弘行： 初期療法におけるスギ花粉症患者の治療コストと治療満足度	p 11
西川恵子： 30年間のヒノキ科スギ属・ヒノキ属の花粉飛散状況（山口県東部） —私の花粉測定奮闘記—	p 22
新規入会者紹介	p 28
話題提供	
食べ歩き 第5回（秋山貢佐）	p 30
中国・四国空中花粉研究会会則	
投稿規程	
2014年度～役員	
資料の部（2014年1月～5月）	
スギ・ヒノキ科花粉実測数 岡山県、広島県、島根県、鳥取県、山口県、香川県、愛媛県	



### 二宮のネズ

昭和51年に香川県自然記念物指定を受けている。ネズとしては日本で2番目の大きさを誇っているとされる。伝説では、戦国時代に長宗我部軍に焼き討ちされた時に生き残った1株だといわれている。（香川県ホームページより抜粋）

## 巻頭言

松山大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室

難波 弘行

近年、中国・四国空中花粉研究会だけでなく、本邦における各花粉研究会研究者の中でも、翌年のヒノキ科（スギ属，ヒノキ属）花粉の予測を行う事が困難であるとの話を良く聞く様になってきました。年を追う毎に、ヒノキ科樹木の花粉生産量が増加傾向にあることに加え、スコールのような集中豪雨や爆弾低気圧の発生など、日本がまるで温帯地域から熱帯地域に変わったのかと思われるような、異常気象も原因の一つと考えられます。私自身、岡山県と愛媛県において前年7月の最高気温平均値や7月の年次気温差を用いて予測を行っていますが、ヒノキ科花粉の予測数と実測数が一致する年が少なくなってきました。その為、新たなヒノキ科花粉の予測方法の確立が望まれるところです。

一方、花粉観測地点や花粉観測の継続に目を向けてみますと、花粉観測を行っている観測者の高齢化に伴い、何時まで観測を継続できるのかという不安な面もあります。今後、花粉観測を行ってもらえる後継者の育成に関しても検討していかなければなりません。このような状況の下、高知県がホームページ上で公開していたヒノキ科花粉の飛散状況を、今年限りで終了するとの内容が掲載されました。高知県は、中国四国地域におけるヒノキ科樹木の植林面積が最も広い県です。さらに、2014年のヒノキ科花粉の飛散数が過去最大であった事がわかっていますので、憂慮すべき事態と考えていました。高知県によりますと、行政機関である環境省の「はなこさん」やウエザーニュースなどの民間会社による花粉情報などが充実してきたため、ホームページによる花粉飛散数の情報提供がその役目を果たしたと説明しておられます。これも時代の流れの中で仕方の無いことかも知れません。

高知県に確認の電話をさせていただいたところ、担当者の方から、高知県がヒノキ科花粉観測の要請をする前から継続して花粉観測を行っている病院を紹介していただきました。そこで、JA高知病院の花粉観測者の方に、花粉観測の情報に関して中国・四国空中花粉研究会に提供していただけないかお願いしたところ、快諾していただきました。また、徳島県におきましては、中国・四国空中花粉研究会に所属している花粉観測施設がありません。今後、高知県や徳島県にも、花粉観測をしていただける施設を増やしていく事が必要と思われれます。

花粉観測に関する技術促進には、目をみはるものがあります。自動花粉計測器に関しては、環境省の「はなこさん」に使用されているKH-3000、ウエザーニュースが用いている「ポーレンロボ」などが花粉計測に役立っていますが、ヒノキ科花粉以外のカバノキ科花粉やブナ科花粉などの多くの花粉の影響を受けています。さらに、大量の黄砂が飛散してきますと、黄砂の影響も受けてしまいます。そのため、ヒトによる花粉観測は必須不可欠と考えています。

現在、花粉の大きさと自家蛍光検出により、花粉の種類毎に花粉数を計測するKP-2000の開発が進んでいます。もし、この機械が実用化されれば、我々は花粉観測の仕事から解放されるかもしれません。その日が来ることを期待しながら、花粉観測を継続していく思いを新たにしています。

## ザゼンソウとミズバショウの花について

市谷地球環境自由研究室 市谷年弘

ザゼンソウとミズバショウの花粉は、光学顕微鏡下では難しいが、電子顕微鏡下ではその同定は可能となる（三好ら，1976）。写真1は，鳥取県若桜町内に生息し，初夏に開花していたものである。紫色の花びらの中央に花がまるで座禅を組んでいるようである。これに対して，写真2の岡山県内に生息，開花していたミズバショウは，花びらと花が，緑色である。両植物の生息域は，ミズバショウは尾瀬ヶ原に代表される植物である。どちらかというところ、私の感じで言うと、ザゼンソウのほうがミズバショウより山間部の奥山に生息しているように見受けられた。



写真1：若桜町でのザゼンソウの開花



写真2：岡山県でのミズバショウの開花

【参考文献】三好ら；1976 中国地方の湿原堆積物の花粉分析学的研究

3. 加保坂湿原（兵庫県） 岡山理科大蒜山研究所報告 第2号，PP10(1976).

## 岡山県におけるヒノキ科花粉飛散状況と2015年の飛散予測

難波弘行<sup>1)</sup>，渡辺浩文<sup>2)</sup>，小山敏章<sup>2)</sup>，板野久実子<sup>3)</sup>，山本直樹<sup>4)</sup>，名部誠<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup> 松山大学薬学部，<sup>2)</sup> こやま薬局，<sup>3)</sup> 吉備高原医療リハビリテーションセンター，

<sup>4)</sup> なでしこ薬局，<sup>5)</sup> 矢掛町国民健康保険病院

### 【はじめに】

我々は、岡山県において年間ヒノキ科花粉数と前年7月最高気温平均値、及び年間ヒノキ科花粉数と7月の年次気温差との間に相関関係が認められることから、これら気象条件を用いて翌年の年間ヒノキ科花粉数を予測している<sup>1)</sup>。しかしながら、近年、年間ヒノキ科花粉数の予測を気象条件から行う事が極めて困難になってきた<sup>2)</sup>。この原因の一つとして、近年の猛暑日の増加やゲリラ豪雨とも称される気象条件が影響している可能性が考えられる。

一方、我々は岡山県におけるヒノキ科花粉の供給地域が岡山県北部であり、3大河川である高橋川、旭川、吉井川に沿って岡山平野に飛散している可能性を報告した<sup>3)</sup>。今後、継続的に年間ヒノキ科花粉数を観測する事は、岡山県におけるヒノキ科花粉の供給地域としての花粉総量が増加する傾向にあるのか否かの判断資料として極めて重要である。今回我々は、2014年のヒノキ科花粉予測数と実測数とについて検証し、年間ヒノキ科花粉数の今後の予測の可能性について検討した。また、過去10年間毎のヒノキ科花粉数の推移を検討し、岡山県において今後もヒノキ科花粉が増加していくのか再度検討した。さらに、2015年のヒノキ科花粉の飛散数について予測したので報告する。

### 【方法】

#### 1) 花粉観測施設

岡山県内を北部、中部、南部に分類し3花粉観測施設のヒノキ科花粉数を対象とした。観測施設を下記に示す。

##### ①岡山県北部

・なでしこ薬局（旧：山本薬局）：真庭郡落合町下市瀬（1990年～2014年）

##### ②岡山県中部

・吉備高原医療リハビリテーションセンター（以下、吉備リハ）：上房郡賀陽町吉川字長坂（1991年～2014年）

##### ③岡山県南部

・こやま薬局江崎店：岡山市中区江崎（2003年～2014年）

## 2) 使用した気象条件

気象条件として津山気象測候所（津山市林田）<sup>4)</sup>の7月の最高気温平均値，7月の年次気温差を用いた。

## 3) 花粉捕集期間と観測方法

ヒノキ科花粉の捕集期間は，2月1日から5月10日までとした。花粉の捕集にはダーラム型花粉捕集器を用いた<sup>5)</sup>。日本花粉学会で報告された方法に従い，ワセリンを薄く塗布したスライドガラスを捕集器にセットし，毎朝9：00から24時間自然落下した花粉をカルベルラ液で染色した後，18×18mm内の花粉数を観測して1 cm<sup>2</sup>あたりの花粉数とした<sup>6)</sup>。

## 4) 2014年のヒノキ科花粉予測数と実測数の検討

年間ヒノキ科花粉を観測した3施設（なでしこ薬局，吉備リハ，こやま薬局）において，2014年のヒノキ科花粉予測数と実測数について検討した。

## 5) 過去10年間毎のヒノキ科花粉平均値の推移

花粉観測期間の最も長いなでしこ薬局と吉備リハ，さらにこやま薬局の年間ヒノキ科花粉数を検討すると共に，10年間毎のヒノキ科花粉の2014年までの推移についても検討した。

## 6) 2015年のヒノキ科花粉数の予測

2015年のヒノキ科花粉の予測には，2005年から2014年までの10年間のヒノキ科花粉数と気象条件（7月の最高気温平均値と7月の年次気温差）との間の相関関係について検討し，相関関係の認められた気象条件を用いた。統計処理には解析ソフトStat Viewにて回帰分析を行い， $p < 0.05$ を有意差有りとした。

## 【結果】

### 1) 2014年のヒノキ科花粉予測数と実測数の検討

岡山県内3花粉観測施設における2014年のヒノキ科花粉予測数と実測数との比較，さらに過去10年間のヒノキ科花粉平均値を示す（表1）。2014年のヒノキ科花粉実測数は，なでしこ薬局8,859個/cm<sup>2</sup>（予測数の約49%），吉備リハ1,849個/cm<sup>2</sup>（予測数の約46%），こやま薬局2,409個/cm<sup>2</sup>（予測数の75%）であった。また，2014年のヒノキ科花粉実測数は，なでしこ薬局において過去10年間のヒノキ科花粉平均値の約78%（平均値：11,399個/cm<sup>2</sup>）であった。同じく，吉備リハにおいて約66%（平均値：2,784個/cm<sup>2</sup>），こやま薬局において約74%（平均値：3,252個/cm<sup>2</sup>）であった。

施設名	県北部	県中部	県南部
	なでしこ薬局	吉備高原リハ	こやま薬局
10年間(2005～2014年)ヒノキ科花粉平均値 (個/cm <sup>2</sup> )	11,399	2,784	3,252
2014年ヒノキ科花粉飛散 予測数(個/cm <sup>2</sup> )	17,972	4,026	3,196
2014年ヒノキ科花粉飛散 実測数(個/cm <sup>2</sup> )	8,859	1,849	2,409
2015年ヒノキ科花粉飛散予測数 (個/cm <sup>2</sup> )	11,574	2,791	2,450
7月最高気温平均値	n	10	10
	r	0.767	0.639
	p	0.0096	0.0342
		0.0346	

**表 1. 岡山県各施設における過去10年間のヒノキ科花粉飛散状況前年7月最高気温平均値との関係、及び2015年の飛散予測数**

## 2) 過去10年間毎のヒノキ科花粉平均値の推移

なでしこ薬局において、1990年～2014年までの年間ヒノキ科花粉数は1995年の63,335個/cm<sup>3</sup>が最多であったが、2001年以降で10,000個/cm<sup>3</sup>以上飛散している年が多くなっていた(図1)。10年間毎のヒノキ科花粉平均値は、2004年(1995年～2003年)の11,525個/cm<sup>3</sup>から2005年(1996年～2005年)の6,860個/cm<sup>3</sup>までの間で、年毎に増減を繰り返していた(図2)。

吉備リハでは、1991年～2014年までの年間ヒノキ科花粉数は2001年の11,479個/cm<sup>3</sup>が最多であったが、なでしこ薬局と同様に2001年以降で2,000個/cm<sup>3</sup>以上飛散している年が多くなっていた(図3)。10年間毎のヒノキ科花粉平均値は、2000年(1991年～2000年)の1,749個/cm<sup>3</sup>から2009年(2000年～2009年)の3,582個/cm<sup>3</sup>の間で増減を繰り返していた(図4)。

こやま薬局における1999年～2014年までの年間ヒノキ科花粉数は、2013年の4,696個/cm<sup>3</sup>が最多であり2006年と2007年以外では隔年に増減を繰り返していた。また、他2観測施設の年間ヒノキ科花粉数とほぼ同様の飛散状況が認められた(図5)。10年毎のヒノキ科花粉数平均値は、2008年(1999年～2008年)の2,199個/cm<sup>3</sup>から2014年(2005年～2014年)までの2,437個/cm<sup>3</sup>であり変動幅は小さかった(図6)。

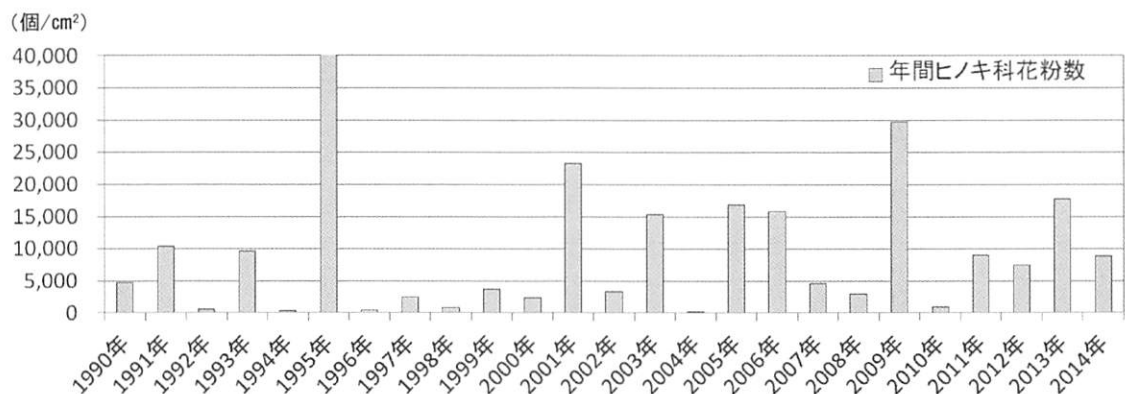


図1. 岡山県北部（なでしこ薬局）における年間ヒノキ科花粉の推移

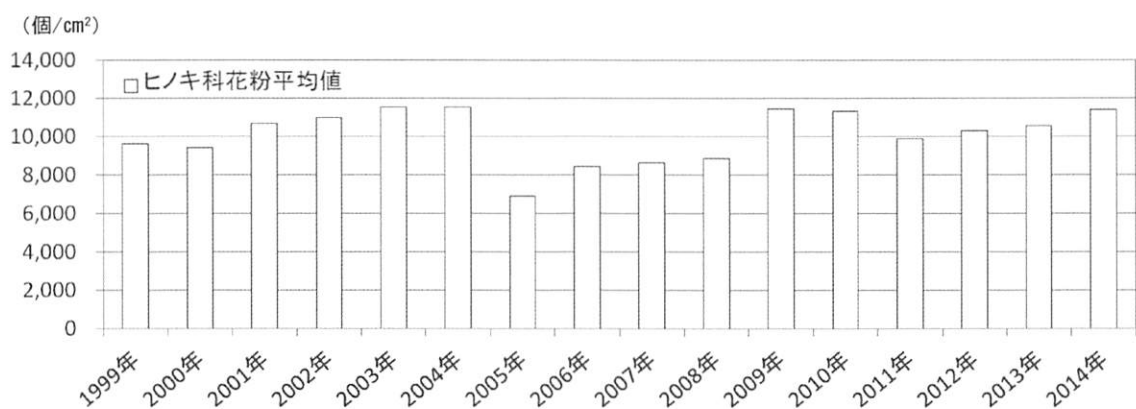


図2. 岡山県北部（なでしこ薬局）における過去10年間毎のヒノキ科花粉平均値

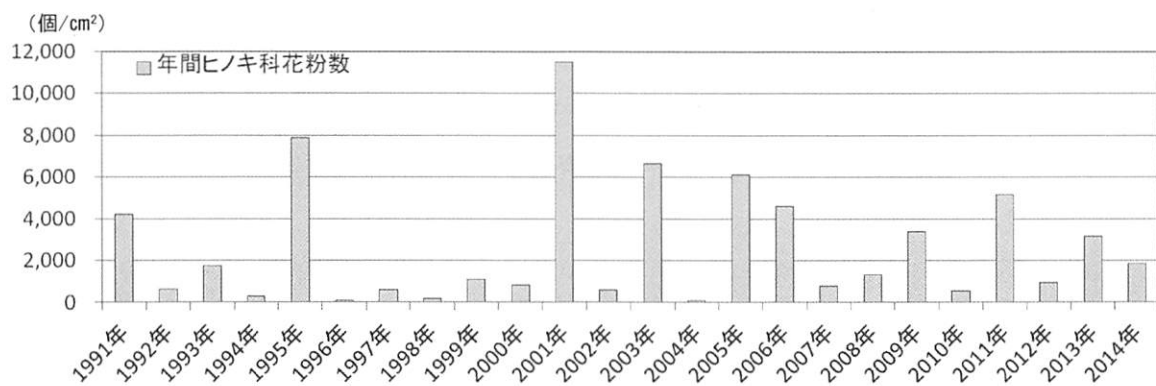


図3. 岡山県中部（吉備リハ）における年間ヒノキ科花粉の推移



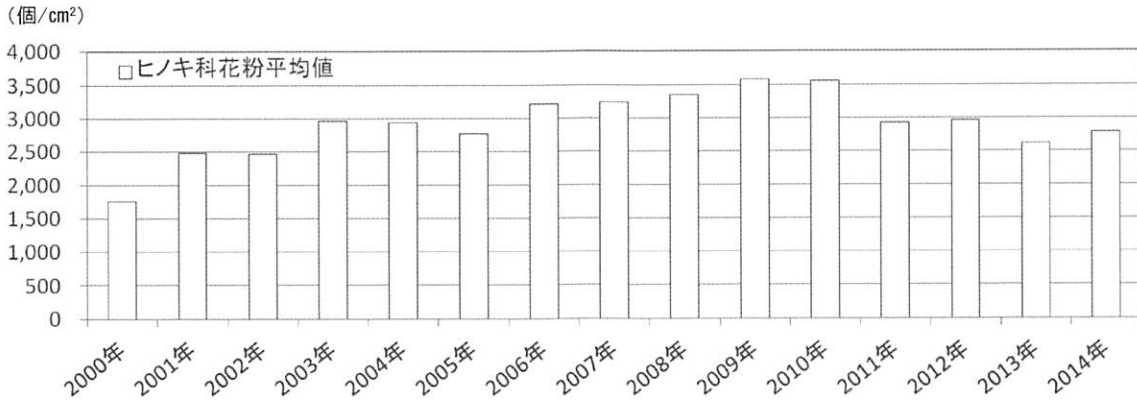


図4. 岡山県中部（吉備リハ）における過去10年間毎のヒノキ科花粉平均値の推移

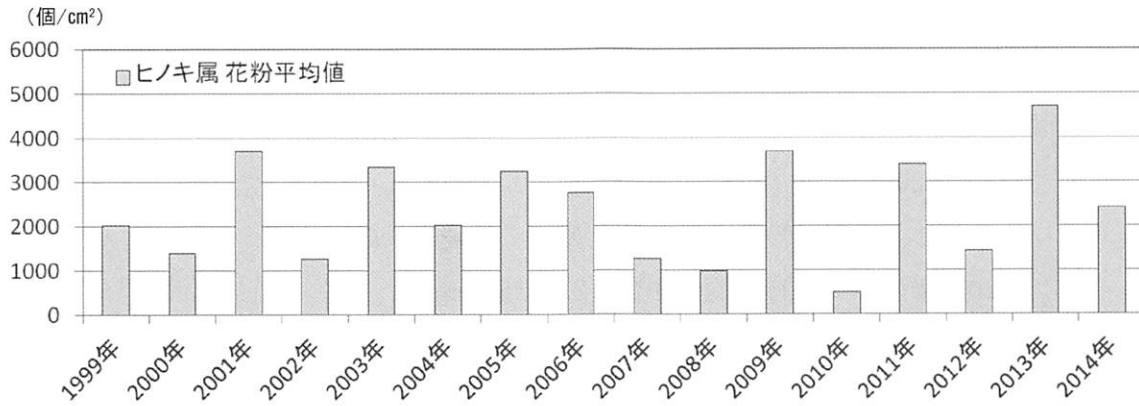


図5. 岡山県南部（こやま薬局）における年間ヒノキ科花粉の推移

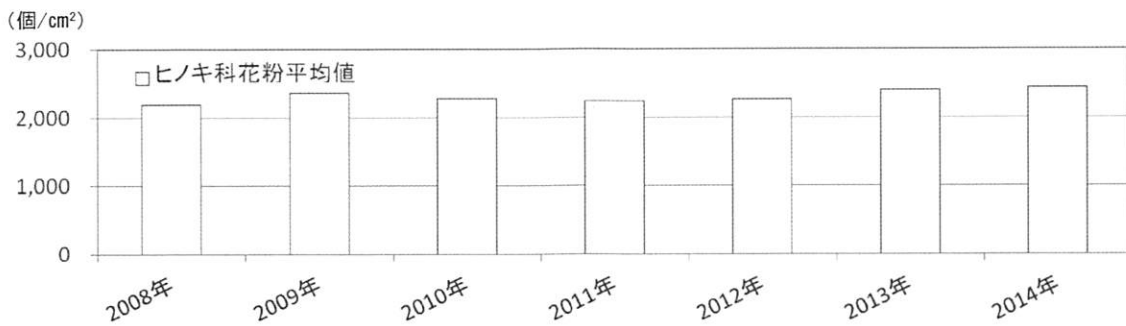


図6. 岡山県南部（こやま薬局）における過去10年間ヒノキ科花粉平均値の推移

### 3) 2014年のヒノキ科花粉予測数

2005年から2014年までの10年間の3花粉観測施設における年間ヒノキ科花粉数と、前年7月の最高気温平均値との間には良い相関関係が認められた。一方、10年間の3観測施設における年間ヒノキ科花粉数と、7月の年次気温差との間には相関関係が認められなかった。そのため、相関関係が認められた年間ヒノキ科花粉数と前年7月の最高気温平均値から回帰式を求め、2014年7月の最高気温平均値(30.6℃)を用いて2015年のヒノキ科花粉数を予測した。

#### ① 岡山県北部

- ・なでしこ薬局

$$Y = 4,330X - 120,924 \quad (r = 0.767, p = 0.0096, n = 10)$$

Y = ヒノキ科花粉数の予測数, X = 7月最高気温平均値

2015年のヒノキ科花粉予測数 : 11,574個/cm<sup>3</sup>

#### ② 岡山県中部

- ・吉備リハ

$$Y = 749X - 20,128 \quad (r = 0.639, p = 0.0342, n = 10)$$

Y = ヒノキ科花粉数の予測数, X = 7月最高気温平均値

2014年のヒノキ科花粉予測数 : 2,791個/cm<sup>3</sup>

#### ③ 岡山県南部

- ・こやま薬局

$$Y = 590X - 15,604 \quad (r = 0.669, p = 0.0346, n = 10)$$

Y = ヒノキ科花粉数の予測数, X = 7月最高気温平均値

2014年のヒノキ科花粉予測数 : 2,450個/cm<sup>3</sup>

#### 【考察】

岡山県内における2014年ヒノキ科花粉実測数は、なでしこ薬局が予測数の約49% (予測数 : 17,972個/cm<sup>3</sup>, 実測数 : 8,859個/cm<sup>3</sup>) , 同じく吉備リハ約46% (予測数 : 4,026個/cm<sup>3</sup>, 実測数1,849個/cm<sup>3</sup>) , こやま薬局約75% (予測数 : 3196個/cm<sup>3</sup>, 実測数 : 2,409個/cm<sup>3</sup>) であり、大幅に予測数を下回った。また、10年間のヒノキ科花粉平均値と比較しても、なでしこ薬局が10年間の平均値の約78% (平均値 : 11,399個/cm<sup>3</sup>, 実測数 : 8,859個/cm<sup>3</sup>) , 同じく吉備リハ約66% (平均値 : 2,784個/cm<sup>3</sup>, 実測数1,849個/cm<sup>3</sup>) , こやま薬局約74% (平均値 : 3,252個/cm<sup>3</sup>, 実測数 : 2,409個/cm<sup>3</sup>) であり、10年平均値を下回った。この事は、前年7月の最高気温平均値や7月の年次気温差を用いて年間ヒノキ科花粉数を予測する事が困難になっている事を示している。実際に、過去10年間における年間ヒノキ科花粉数と7

月の最高気温平均値との間、及び年間ヒノキ科花粉数と7月の年次気温差との間には、2013年まではいずれかの観測施設において相関関係が認められていた<sup>1)</sup>。しかしながら、2014年の今回の検討では、3花粉観測施設における年間ヒノキ科花粉数と前年7月の最高気温平均値との間には相関関係が認められるものの、年間ヒノキ科花粉数と7月の年次気温差との間には相関関係が認められなかった。今後、異常気象ともいえる気候の変動を踏まえ、気象条件を見直して検討する必要があると考えている。

過去10年間毎のヒノキ科花粉平均値に関して、岡山県の花粉供給地域である県北部（なでしこ薬局）におけるヒノキ科花粉平均値は、ほぼ頭打ち状態となっている事を報告した<sup>2)</sup>。長期継続観察の今回の検討からも、なでしこ薬局におけるヒノキ科花粉の飛散数は頭打ち状況と考えられた。同様に、吉備リハにおける10年間のヒノキ科花粉平均値は、2009年（2000年～2009年）の3,582個/cm<sup>3</sup>を最大飛散数として頭打ち状態であり、岡山県南部のこやま薬局においても同様の結果と考えられる。

今回、2005年から2014年までのヒノキ科花粉数と前年7月の最高気温平均値を用いて2015年のヒノキ科花粉数を予測した。その結果、岡山県北部のなでしこ薬局においては過去10年間の平均値とほぼ同数の11,574個/cm<sup>3</sup>が飛散すると予測された。県中部の吉備リハにおいては、2,791個/cm<sup>3</sup>であり、県南部のこやま薬局では2,450個/cm<sup>3</sup>と予測された。これらの予測結果は、3花粉観測施設の過去10年間の平均値とほぼ同数値であり、2014年よりも多く飛散すると考えられる。

今まで、スギ花粉症の初期療法に関してその有用性が報告されている<sup>7,8)</sup>。しかしながら、症状が出ない時期から継続的に治療を行うことによる費用の負担が問題になっていた。今回我々は、初期療法のうち、症状が僅かでも現れた場合に直ちに治療を開始する事で、治療コストと満足度のバランスが最もよく、費用対効果が優れている事を報告した<sup>9)</sup>。今後、症状が少しでも現れた場合に、OTCを含めた初期療法の有用性について啓蒙し、花粉症の患者治療に貢献したいと考えている。

#### 【引用文献】

- 1) 難波弘行, 山本直樹, 岡崎彰徳, 渡辺浩文, 小山敏章, 松田正夫, 名部誠: 2011年における岡山県内スギ・ヒノキ科花粉飛散予測数の検証と2012年の予測数. 中国・四国空中花粉研究会誌 22, 4-11 (2011) . .
- 2) 難波弘行, 岡崎彰徳, 渡辺浩文, 小山敏章, 板野久実子, 名部誠: 岡山県におけるヒノキ科花粉飛散状況と2014年飛散予測数の検討. 中国・四国空中花粉研究会誌 24, 5-11 (2013) .
- 3) 難波弘行, 齋藤勝剛, 佐橋紀男: 岡山県におけるスギ・ヒノキ科花粉の供給地域と飛

散動態の推定. アレルギー 48, 1337-1347 (1999) .

4) 気象庁気象統計情報 :

[http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_s3.php?prec\\_no=66&block\\_no=47756&year=&month=&day=&view=a2](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=66&block_no=47756&year=&month=&day=&view=a2)

5) Durham, O. C. : The volumetric incidence of atmospheric allergens. IV.

A proposed standard method of gravity sampling, counting, and volumetric interpolation of results. J. Allergy 17, 79-86 (1946).

6) 佐橋紀男・岸川禮子・西間三啓・長野準 : 日本における空中花粉測定および花粉情報の標準化に関する研究報告. 花粉誌39, 129-134 (1993) .

7) 小澤仁. スギ・ヒノキ花粉症に対する初期療法. アレルギーの臨床26 (1) , 55-60 (2006) .

8) 小澤仁. 初期療法の実際とその意義. 治療 88(2) , 233-240 (2006) .

9) 岡田啓司, 豊田芳彦, 石田制利, 清水秀樹, 宮野良隆, 山口 巧, 難波弘行. 初期療法におけるスギ花粉症患者の治療コストと治療満足度. 花粉誌60 (1) , 5-12 (2014) .

## 初期療法におけるスギ花粉症患者の 治療コストと治療満足度

岡田 啓司・豊田 芳彦・石田 制利・清水 秀樹・  
宮野 良隆・山口 巧・難波 弘行

日本花粉学会会誌 第60巻 第1号 抜刷  
(2014年6月)

(原著論文)

## 初期療法におけるスギ花粉症患者の 治療コストと治療満足度

岡田 啓司<sup>1)\*</sup>・豊田 芳彦<sup>1)</sup>・石田 制利<sup>1)</sup>・清水 秀樹<sup>1)</sup>・  
宮野 良隆<sup>2)</sup>・山口 巧<sup>3)</sup>・難波 弘行<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> アプロコ東尾道薬局 〒729-0141 広島県尾道市高須町 5738

<sup>2)</sup> (医療法人社団) みやの耳鼻咽喉科 〒729-0141 広島県尾道市高須町 5737

<sup>3)</sup> 松山大学薬学部臨床薬学教育研究センター 〒790-8578 愛媛県松山市文京町 4-2

(2013年8月18日 受付, 2014年1月27日 受理)

Prophylactic treatment for Japanese cedar pollinosis:  
medical costs and satisfaction level among patients

Keiji OKADA<sup>1)</sup>, Yoshihiko TOYOTA<sup>1)</sup>, Noritoshi ISHIDA<sup>1)</sup>, Hideki SHIMIZU<sup>1)</sup>,  
Yoshitaka MIYANO<sup>2)</sup>, Takumi YAMAGUCHI<sup>3)</sup> and Hiroyuki NAMBA<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Pharmacy, APCO Higashionomichi, Takasu-cho 5738, Onomichi, Hiroshima 729-0141, Japan

<sup>2)</sup> MIYANO Clinic of Otorhinolaryngology, Takasu-cho 5737, Onomichi, Hiroshima 729-0141, Japan

<sup>3)</sup> Education and Research Center for Clinical Pharmacy, College of Pharmaceutical Sciences,  
Matsuyama University, Bunkyo-cho 4-2, Matsuyama, Ehime 790-8578, Japan

We investigated the change of Cupressaceae pollen scattering in 2011, and the allergy symptoms of the medical consultation and the state of the consultation number of patients. We compared the cost of medicine with treatment among 3 groups: the “prophylactic treatment group with no symptoms”, the “prophylactic treatment group with small symptoms” and the “prophylactic treatment untreated group”. Moreover, we compared the satisfaction of the patients with treatment among the three groups. Although the “prophylactic treatment group with no symptoms” was an effective treatment regarding satisfaction, the cost of medicine with treatment was most expensive. This is because the treatment period was based on “a prediction day of the pollen scattering start” being longer. On the other hand, the “prophylactic treatment untreated group” had the lowest level of satisfaction among the patients. The “prophylactic treatment group with small symptoms”, which was not influenced by “the pollen scattering start prediction day”, had the best balance between the treatment cost and satisfaction among the patients. Furthermore, the cost-effectiveness was proven to be superior statistically.

**Key Words:** Prophylactic treatment, Japanese cedar pollinosis, satisfaction of the patients, the cost of medicine

### 緒 言

1963年に日本において初めて報告されたスギ花粉症は<sup>(1)</sup>,有病率が1998年の16.2%から2008年の26.5%へと,10年間で約10ポイント増加した事が報告されている<sup>(2)</sup>.また,鼻アレルギーは,生産性の損

※ E-mail: BCG02417@nifty.com

失による経済的影響が高いと報告<sup>(3)</sup>がされており,当然の事ながら,花粉症についても生産性並びに医療費による損失は計り知れないものがあると考えられる.スギ花粉症に対する初期療法は,その理念が提唱されてから30年以上が経過し,花粉症患者に浸透してきている治療法である<sup>(4)</sup>.鼻アレルギー診療ガイドラ

イン 2009 年版<sup>(5)</sup> では、初期療法開始の目安として、「第 2 世代抗ヒスタミン薬は花粉飛散予測日または症状が少しでも現れた時点で内服し、その他の薬剤では飛散予測日の 1~2 週間前をめどに治療を始める」とされている。初期療法が有用であるとの報告は多いが、その治療コストの比較や、症状と実際の治療開始のタイミングを検討した文献はない。

そこで我々は、大量飛散年であった 2011 年のスギ花粉飛散期間において、ヒノキ科（スギ属、ヒノキ属など）<sup>(6)</sup> 花粉飛散数の変化と受診状況、および初診時の症状を調査した。さらに「初期療法実施群；無症状」（以下 I-a 群）と「初期療法実施群；症状少し」（以下 I-b 群）および「初期療法未実施群」（以下 II 群）における治療薬の変更割合と治療コスト、および治療満足度を比較検討したので報告する。

## 方 法

### 1) ヒノキ科空中花粉の捕集・計測方法

ヒノキ科花粉の花粉捕集器は、ダーラム型花粉捕集器を用い、空中花粉測定と花粉情報標準化委員会の発表に従い観察した<sup>(7)</sup>。1 月 1 日から 5 月 30 日の期間、ワセリンを薄く塗布したスライドガラスを捕集器に設置し、午前 9 時（24 時間毎）に交換した。回収したスライドガラスを Carberla 液で染色後、光学顕微鏡下で 3.24cm<sup>2</sup>（1.8cm×1.8cm）を計測し、1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数として表した。

### 2) 調査方法

2011 年のヒノキ科花粉の飛散期間である 1 月 1 日から 5 月 30 日の間、アブコ東尾道薬局（広島県尾道市）に来院した患者のうち、「スギ花粉症と診断された」と回答した 140 名（男性 65 名、女性 75 名、8~79 歳）について検討した。

花粉症の 4 大症状（くしゃみ、鼻汁、鼻閉、眼掻痒感）について、初期療法を目的として受診した症状のない患者を「I-a 群」、鼻アレルギーガイドライン重症度分類<sup>(5)</sup>の軽症に相当する、「症状が少し出て直ちに受診した患者」を「I-b 群」、その他を「II 群」とした。

これらの群において、当薬局にて観察した花粉飛散数の日々の変化と受診状況の関係を調査し、各群の治療コスト（薬局における総保険点数）と治療満足度について比較検討した。治療満足度に関しては、4 月下旬の最終来院時にアンケートにて調査を行い、「満足」を 3 点、「ほぼ満足」を 2 点、「満足していない」または「無記入」を 1 点とした。統計処理には、解析ソフト JMP-9 を用い、 $p < 0.05$  を有意差ありとした。3 群

間における人数と年齢構成比の分布の差については、Pearson  $\chi^2$  検定を行った。3 群間における治療の満足度と保険点数の比較については、分散分析を行った。3 群間の一様性が棄却された場合、3 群間における治療の満足度については Steel-Dwass 検定を行い、3 群間における保険点数に関しては Tukey-Kramer 検定を行った。

## 結 果

### 1) 初回受診時の症状

140 名の患者のうち、「I-a 群」は 37 名（26.4%）、「I-b 群」は 50 名（35.7%）、「II 群」は 53 名（37.9%）であった（Fig. 1）。

患者人数で多かったのは、30 歳代（36 名）、ついで 10 歳代（29 名）、40 歳代（26 名）、50 歳代（21 名）、60 歳以上（13 名）、20 歳代（11 名）、10 歳未満（4 名）であった。

「I-a 群」37 名の内訳は、30 歳代が 9 名、ついで 40 歳代が 8 名、50 歳代が 7 名であり、10 歳未満はいなかった。「I-b 群」50 名の内訳は、30 歳代が 13 名、ついで 40 歳代が 12 名であった。「II 群」53 名の内訳は、10 歳代と 30 歳代が各 14 名であった。

「I-a 群」と「I-b 群」を合わせた「初期療法実施群」の患者割合は、40 歳代が 23.0%（I-a 群 8 名、I-b 群 12 名）、50 歳代が 18.4%（I-a 群 7 名、I-b 群 9 名）、30 歳代が 25.3%（I-a 群 9 名、I-b 群 13 名）であった。花粉症患者の初期療法実施群のうち、30 歳から 50 歳代が 66.7% を占めていた（Fig. 2）。

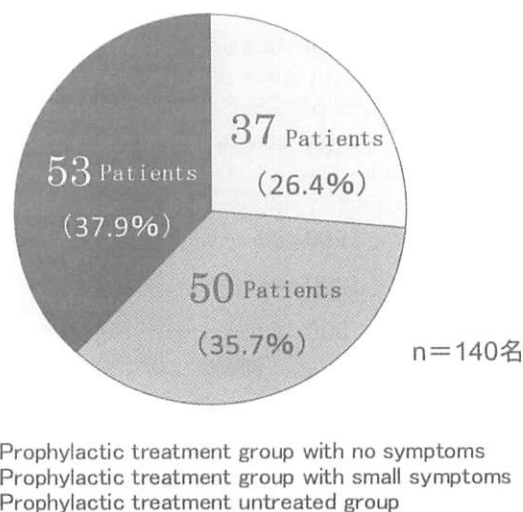


Fig. 1. Category and composition ratio of prophylactic treatment at the time of the first consultation.

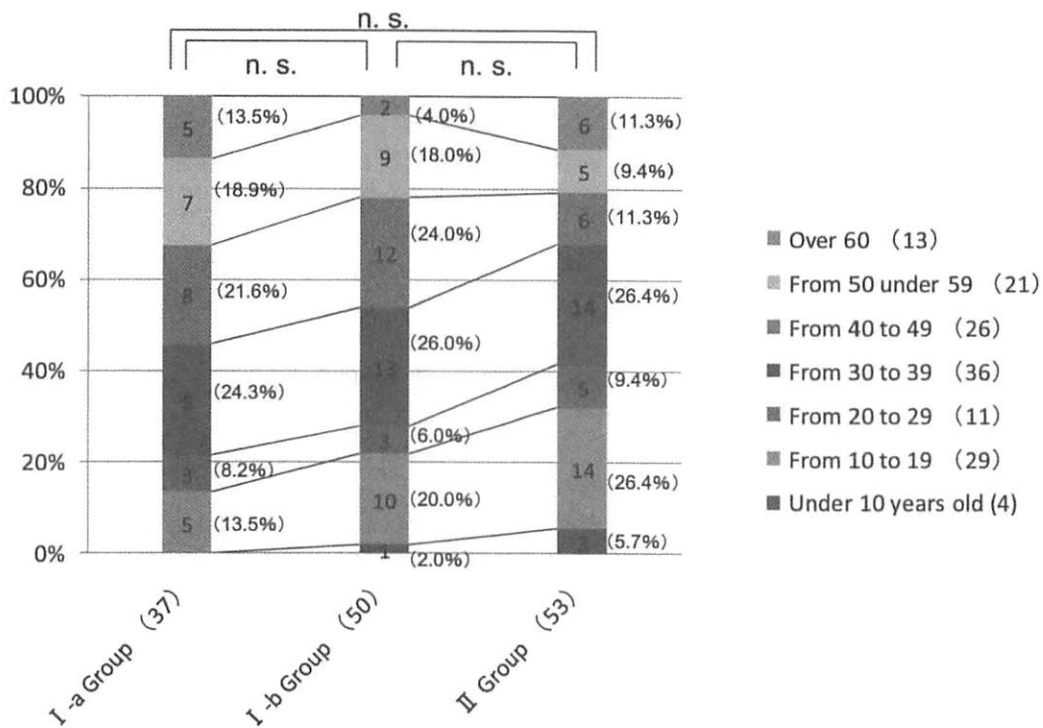


Fig. 2. Age distribution of the patients' symptoms at the time of the first consultation.

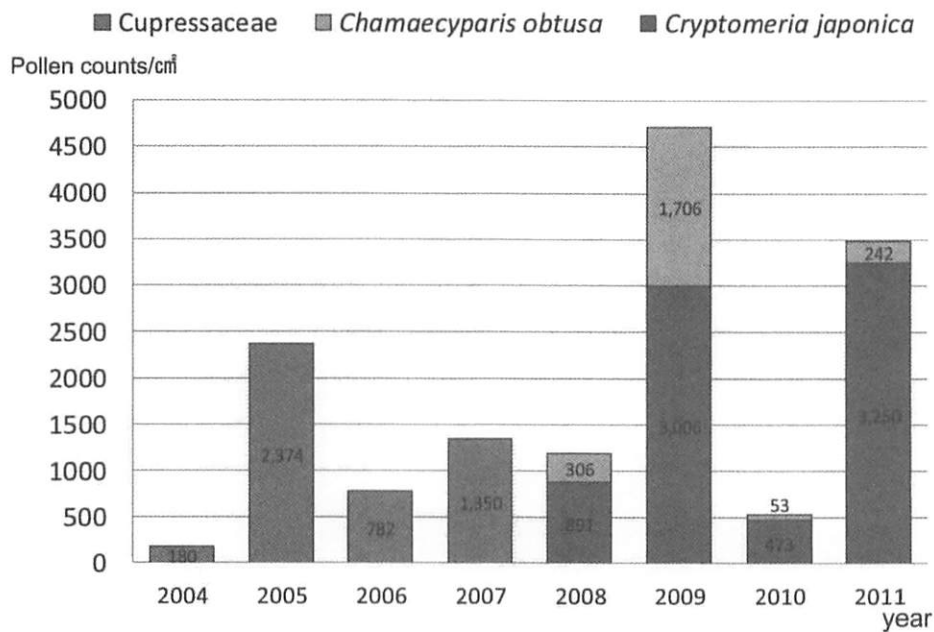


Fig. 3. Annual change of Cupressaceae pollen scattering in Onomichi, Hiroshima. After 2008, *Chamaecyparis obtusa* and *Cryptomeria japonica* were distinguished.



## 2) 花粉飛散状況と初回受診時の症状

広島県尾道市（アプコ東尾道薬局）におけるヒノキ科花粉（スギ属、ヒノキ属など）の飛散状況を示す（Fig. 3）。2004年から2007年までは、スギ属とヒノキ属を合計して観察していたが、2008年以降、スギ属とヒノキ属を識別して観察した。観察期間が8年間と短い、年々増加傾向にあり、ヒノキ科花粉におけるスギ属の割合は、76.8%と高かった。

### ① 2011年のヒノキ科花粉の総飛散数（Fig. 4）

2011年のヒノキ科花粉の総飛散数は、3,492個/cm<sup>2</sup>（以下、/cm<sup>2</sup>省略）で、昨年（526個）の約6.6倍、過去7年間の平均（1,589個）の約2.2倍であった。

ヒノキ科スギ属花粉の飛散時期は2月24日から5月8日の74日間、ヒノキ科ヒノキ属花粉の飛散時期は3月30日から5月15日の49日間であり、ヒノキ科全体の花粉飛散時期は2月24日から5月15日の81日間であった。「非常に多い日」とされる1cm<sup>2</sup>あたり50個以上を観測した日数は、ヒノキ科スギ属花粉が22日間であり、総飛散日数の29.7%であった。ヒノキ科ヒノキ属花粉においてはなかった。

### ② 花粉飛散予測日と実際の花粉飛散日

2011年の広島県尾道市の花粉飛散予測日は、ウエザーニュース<sup>(8)</sup>では2月10日から15日、日本気象協会<sup>(9)</sup>では2月20日であった。尾道市のヒノキ科スギ属花粉飛散日は2月24日であり、飛散予測日と比べ、最大で14日間遅かった。

### ③ 花粉症患者の受診傾向

花粉飛散予測日（2月10日）までに受診した患者は49名（35.0%）、実際の花粉飛散日（2月24日）までに受診した患者は67名（47.9%）であった。花粉飛散日から15日後の3月11日までに、全ての患者は初回受診を終えた。

### 3) 3群の薬局における治療コストと治療満足度の比較

3群間における治療の満足度と保険点数の比較について分散分析を行った結果、3群間の一様性が棄却された。3群間における人数と年齢構成比の分布の差について統計的に検討した結果、3群間に有意差は認められなかった。

#### ① 薬局における治療コスト

薬局における治療コストの平均は、「I-a群」が2737.6点、「I-b群」が1926.6点、「II群」が1957.0点であった。

「I-a群」と「I-b群」との間には有意差が認められた（ $p=0.0279$ ）。また「I-a群」と「II群」との間にも有意差が認められた（ $p=0.0332$ ）。しかし、「I-b群」と「II群」との間には、有意差が認められなかった（Fig. 5）。

#### ② 治療満足度

「I-a群」は91.9%（34名/37名）が「満足」と答えた。「ほぼ満足」が1名、「無記入」が2名であり、満足度点数の平均は、2,865であった。「I-b群」は90.0%（45名/50名）が「満足」と答えた。

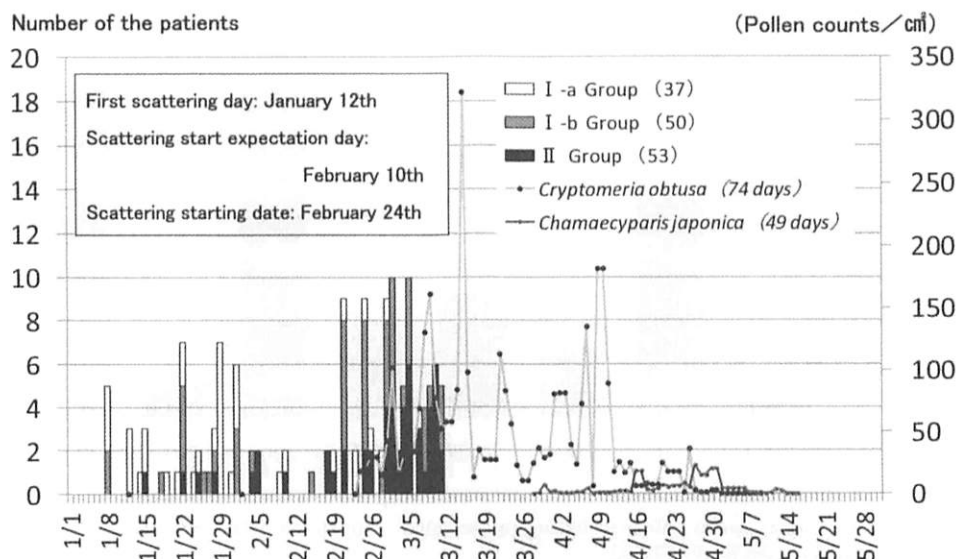


Fig. 4. Change of Cupressaceae pollen, and the number of medical consultations of patients with Japanese cedar pollinosis in 2011.

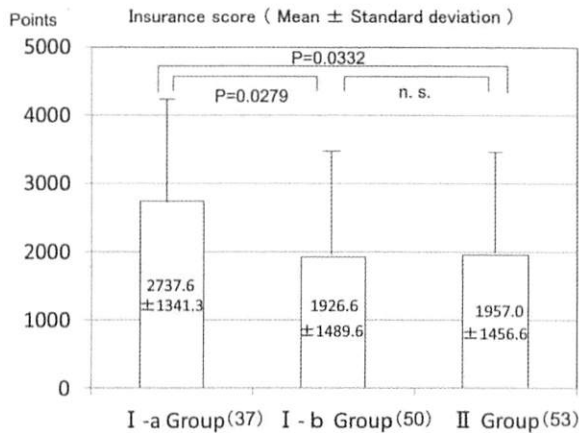


Fig. 5. Comparisons of medical costs among the three groups following treatment.

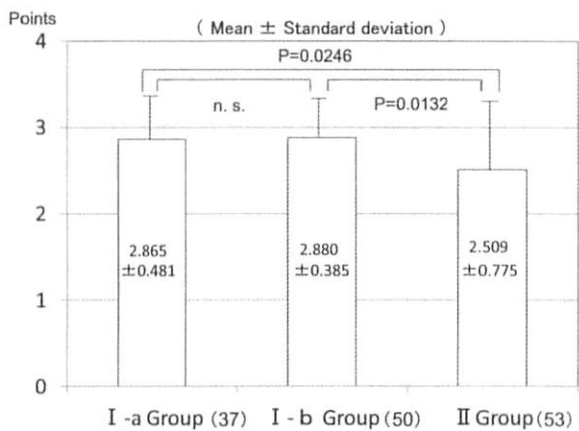


Fig. 6. Score of satisfaction among the three groups following treatment.

「ほぼ満足」が4名、「無記入」が1名であり、満足度点数は2.880であった。一方、「II群」の満足度は67.9% (36名/53名)と最も低かった。「ほぼ満足」が7名、「満足していない」と「無記入」の合計が9名であり、満足度点数の平均は2.509であった。

「I-a群」と「I-b群」との間には有意差が認められなかった。しかし、「I-a群」と「II群」との間には有意差が認められた ( $p=0.0246$ )。また、「I-b群」と「II群」との間にも有意差が認められた ( $p=0.0132$ ) (Fig. 6)。

#### 4) 3群における処方比較 (Fig. 7)

##### ① 「I-a群」の処方内容

「I-a群」患者37名において、初回受診時の内服薬に関しては、約1.5種類 (37名, 54件)、37名全員に内服薬処方があり、7名 (18.9%)に処方追加、2名 (5.4%)に処方変更があった。初回処方時の97.3% (36名)に抗ヒスタミン薬の処方があった。内服薬の処方日数は、平均76.2日処方であった。点鼻薬は、初回受診時は16名 (43.2%)の患者に処方があり、10名 (27.0%)に処方追加、3名 (8.1%)に処方変更があった。点眼薬は、初回受診時は13名 (35.1%)の患者に処方があり、12名 (32.4%)に処方追加、1名 (2.7%)に処方変更があった。

##### ② 「I-b群」の処方内容

「I-b群」患者50名において、初回受診時の内服薬に関しては、約1.5種類 (50名74件)、50名全員に内服薬処方があり、4名 (8.0%)に処方追加、3名 (6.0%)に処方変更があった。初回処方時の96.0% (48名)に抗ヒスタミン薬の処方があった。内

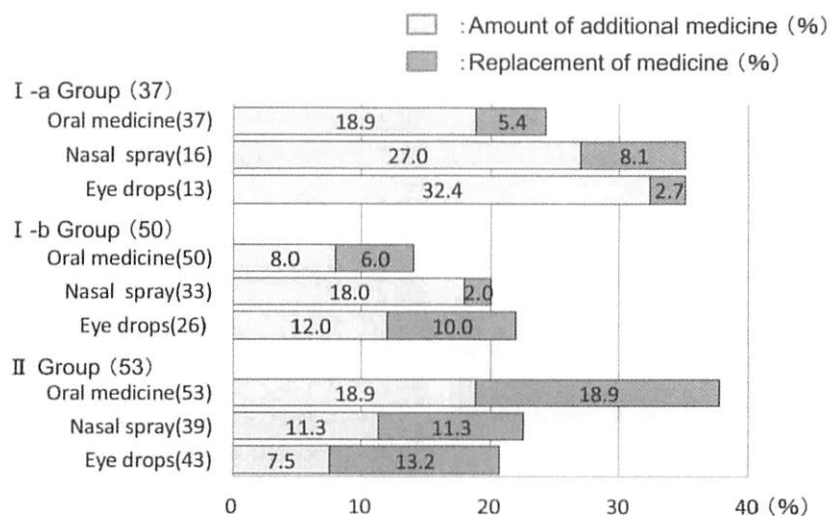


Fig. 7. Ratio comparison of the replacement and the additional medicine by prescription among the three groups.

服薬の処方日数は、平均47.0日処方であった。点鼻薬は、初回受診時は33名(66.0%)の患者に処方があり、9名(18.0%)に処方追加、1名(2.0%)に処方変更があった。点眼薬は、初回受診時は26名(52.0%)の患者に処方があり、6名(12.0%)に処方追加、5名(10.0%)に処方変更があった。

### ③ 「Ⅱ群」の処方内容

「Ⅱ群」患者53名において、初回受診時の内服薬に関しては、約1.8種類(53名94件)、53名全員に内服薬処方があり、10名(18.9%)に処方追加、10名(18.9%)に処方変更があった。初回処方時の94.3%(50名)に抗ヒスタミン薬の処方があった。内服薬の処方日数は、平均45.3日処方であった。点鼻薬は、初回受診時は39名(73.6%)の患者に処方があり、6名(11.3%)に処方追加、6名(11.3%)に処方変更があった。点眼薬は、初回受診時は43名(81.1%)の患者に処方があり、4名(7.5%)に処方追加、7名(13.2%)に処方変更があった。

## 考 察

今回検討した140名(男性65名、女性75名)のスギ花粉症患者受診数は、これまでの報告と同様、10歳代・30歳代・40歳代にピークがあり、男性よりも女性が多かった<sup>(10)</sup>。このうち、「Ⅰ-a群」患者は37名(26.4%)、「Ⅰ-b群」患者は50名(35.7%)であり、合計87名(62.1%)が初期療法実施群であった。

今回検討した3群における構成人数と年齢構成比の分布の差に関しては、有意差が認められなかった。しかし、初期療法を受ける患者割合の傾向として、30歳から50歳代が60%を超えており、初期療法に対して理解が良い事が伺われる。一方、「Ⅱ群」の患者53名の半数以上が10歳代と30歳代であった。本来は、初期から治療すべき若年者が初期治療を受けていないのは、花粉症に対する病態や治療法の知識不足、さらに通院上の制約が考えられるが、より多くの患者を対象として検討する事が必要と考えられる。10歳代の患者は自ら受診する事は難しく、親への教育を行う事で、今後の花粉症症状の悪化回避や花粉症シーズンの過ごし方に反映される事が期待出来る。

広島県尾道市における2011年のヒノキ科花粉の総飛散数は、3,492個であった。これは昨年(526個)の約6.6倍、過去7年間の平均(1,589個)の約2.2倍であり、花粉飛散の多い年であった。

治療経過を比較すると、「Ⅰ-a群」は、内服薬中心の処方であり、処方変更が少なく、処方追加は多かった。治療コストは、2737.6点(処方日数76.2日)

と最も高額であったが、治療満足度は91.9%と最も高く、安定した治療経過であった事が伺える。「Ⅰ-b群」も、内服薬中心の処方であり、処方変更や処方追加が少ない結果であった。治療コストは、1926.6点(処方日数47.0日)であり、「Ⅰ-a群」と有意差が認められた。一方、満足度に関しては、「Ⅰ-a群」と有意差が認められず、「Ⅰ-a群」と同様に90.0%と高く安定した治療経過であった事が伺える。この「Ⅰ-a群」と「Ⅰ-b群」の治療コストの差は、811点(内服処方日数29.2日)であり、「花粉飛散予測日」よりも実際の「花粉飛散日」が、最大で14日遅れた事が起因すると考えられた。

一方、「Ⅱ群」は、処方薬が多く、処方追加は少ないものの処方変更が最も多いという結果であった。治療コストは1557.0点であり、「Ⅰ-b群」と有意差が認められず、ほぼ同額の保険点数であった。激しい症状が継続した状態での受診のため、治療の難しさが伺える。満足度に関しては、「Ⅰ-a群」や「Ⅰ-b群」との間に有意差が認められ、67.9%と最も低いという結果であった。発症から受診までの日数に相関して自覚症状は悪化するという報告<sup>(11)</sup>もあり、症状の軽い段階での受診が重要である。

「初期療法は、花粉症の包括的かつ計画的な治療法である」<sup>(12)</sup>と提唱されており、患者の満足度を高める事が報告されている。一方、患者群には、「高感受性群」と「低感受性群」の2群が存在しており<sup>(13)</sup>、初期療法の開始時期決定の難しさが指摘されている<sup>(14)</sup>。

我々の検討から、花粉飛散予測日に基づく初期療法には、治療コストの高騰というデメリットが明らかとなった。しかし、「症状が少し現れてからの受診」である初期療法「Ⅰ-b群」は、「花粉飛散予測日」に左右されず、治療コストと治療満足度のバランスが最もよく、医療経済学的に最もふさわしい事が証明された。今後、初期療法を開始するタイミングを通知できれば、より効率的な初期療法を行う事ができると考えられる。

近年、点鼻薬および点眼薬も初期療法に有効であるという報告<sup>(15,16)</sup>がある。「眼掻痒感」は、他の自覚症状に比べて高頻度に認められる<sup>(17)</sup>事が報告されている。鼻粘膜においては抗炎症作用を有する薬剤が有効であると考えられ、今後は、初期療法にも外用薬の処方が増えると思われる。しかし、外用薬は、患者のコンプライアンスが悪く、症状の出た時に行なう傾向が強いと報告したように<sup>(18,19)</sup>、薬剤師によるさらなる関与が必要である。

ヒノキ科花粉飛散開始後は、患者受診が増え外来が混雑する。年間のヒノキ科花粉数と年間の患者数との間、さらに日々の花粉数と症状の強さとの間には相関

関係が認められる事が報告されている<sup>(20, 21)</sup>。初期療法はこの最盛期よりも早期に治療を開始するため、患者指導を十分に取り入れたゆとりある花粉症治療が実践できる。最盛期に、同じような患者指導を行う事は現実的に不可能であり、この患者指導の一端を薬剤師が担うべきである。

また、スギ花粉症の好発年齢が30~40歳代である事を考えると、忙しくて受診できない患者は、一般用医薬品（以下OTC医薬品）を利用すると思われる。我々は、病院に受診して処方を受けたにもかかわらず、OTC医薬品を購入している患者が約20%であったと報告<sup>(19)</sup>している。

花粉の情報提供や抗原回避のアドバイスに加え、初期療法薬の服用開始時期や受診勧告といった医薬連携が望まれる。患者の個人差を念頭に入れたテーラーメイド治療に寄与する事が、治療効果と患者の満足度を高め、医療経済面においても重要である。また、ジェネリック医薬品などの安価な薬の選択や治療効果を検討する事も、今後の課題である。

## 要 約

我々は、スギ花粉症患者における初期療法に関して、2011年のスギ花粉飛散数変化と受診状況および初診時の症状を調査するとともに、「初期療法実施群：無症状」と「初期療法実施群：症状少し」および「初期療法未実施群」における治療コストと治療満足度を比較検討した。

初期療法は有効な治療法であるが、無症状で「花粉飛散予測日」を基準として受診した場合は治療期間が長期になるために、治療コストの高騰というデメリットが明らかとなった。一方、「初期療法未実施群」は、患者の満足度が最も低かった。

初期療法のうち、「初期療法実施群：症状少し」は、「花粉飛散予測日」に左右されず、治療コストと満足度のバランスが最もよく、費用対効果が優れている事が統計学的に証明された。

## 謝 辞

患者情報の収集にご尽力していただいた津田緑氏、大村寛香氏、横山知恵美氏、谷田純枝氏、古荘香澄氏、大宮より子氏、伊藤ゆかり氏、迫美穂氏（以上アプロ東尾道薬局）、および篠澤久美子氏、国竹美香氏、内田典代氏、亀田香葉氏（以上みやの耳鼻咽喉科）に深く感謝いたします。

また、花粉の観測を継続してこられた故横山知則氏、津田緑氏（以上アプロ東尾道薬局）に感謝いたします。

## 引用文献

- (1) 堀口伸作・斎藤洋三：栃木県日光市におけるスギ花粉症 Japanese cedar pollinosis の発見. アレルギー 13, 16-18 (1964).
- (2) 馬場廣太郎・中江公裕：鼻アレルギーの全国疫学調査2008（1998年との比較）－耳鼻咽喉科医およびその家族を対象として－. *Prog. Med.* 28, 2001-2012 (2008).
- (3) Charles E.Lamb, Paul H.Ratner, Clarion E.Johnson, Ambarish J.Ambergaonkar, Ashish V.Joshi, David Day, Najah Sampson and Benjamin Eng: Economic impact of workplace productivity losses due to allergic rhinitis compared with select medical conditions in the United States from an employer perspective. *Current medical research and opinion.* 22 (6), 1203-1210 (2006).
- (4) 奥田 稔・古内一郎・佐々木好久・石井哲夫・白井信朗・斎藤洋三・三宅浩郷・斎藤成司・岩崎由雄：スギ花粉症に対するケトチフェン季節前投与の予防効果. *耳展* 29 (補3), 277-293 (1986).
- (5) 鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会：鼻アレルギー診療ガイドライン－通年性鼻炎と花粉症－, 2009年度版（改訂第6版）, ライフ・サイエンス東京（2009）.
- (6) 米倉浩司：高等植物分類表. 北隆館 pp.34-35 (2009).
- (7) 佐橋紀男・岸川禮子・西間三馨・長野 準：日本における空中花粉測定および花粉情報の標準化に関する研究報告. *花粉誌* 39, 129-134 (1993).
- (8) ウエザーニュース  
<http://weathernews.com/ja/nc/press/2010/101208.html>
- (9) 日本気象協会  
<http://www.jwa.or.jp/content/view/full/3586/>
- (10) 馬場廣太郎・田中 晃：花粉症疫学調査トピックス. *アレルギーの臨床* 17, 179-183 (1997).
- (11) 小澤 仁：花粉症の症状にはどんなものがあるか. *からだの科学* 235, 45-49 (2006).
- (12) 遠藤朝彦：初期療法の実際. *臨床と薬物治療* 18, 1099-1102 (1999).
- (13) 馬場廣太郎：アレルギー性鼻炎に対する抗アレルギー薬の治療. *鼻アレルギーフロンティア* 1, 38-41 (2001).
- (14) 中川 肇・渡辺行雄・林 隆一・安村佐都紀・安田恵子・五十嵐良和：スギ花粉症に対する初期治療の現状－Evidence-Based Medicineの確立の必要性－. *花粉症研究会会報* 13, 21-26 (2002).
- (15) 今野昭義：鼻過敏症－その病態と臨床－. 第97

- 回日本耳鼻咽喉科学会宿題報告 (1996).
- (16) 海老原信行：塩酸オロパタジン点眼液による季節性アレルギー性結膜炎の初期療法. あたらしい眼科 24, 1523-1525 (2007).
- (17) 中川やよい：アレルギー性結膜炎患者の受診パターンと治療のコンプライアンス—インターネット患者アンケート全国調査 2005 年度報告書—. 新薬と臨床 55, 74-88 (2006).
- (18) 難波弘行・佐橋紀男・山本昌彦・吉田友英・柳川かおり・廣木信重・泉本 恵・岩崎琴恵・日高奈津子：スギ花粉症受診患者へのアンケート調査. 花粉誌 50, 73-82 (2004).
- (19) 岡田啓司・豊田芳彦・石田制利・清水秀樹・岡本和憲・久我正明・難波弘行：スギ花粉症患者の生活態度および薬物治療に関するアンケート調査. 花粉誌 58, 81-90 (2012).
- (20) Sahashi, N., Ikuse, M., Ohmoto, T., Saito, Y., Tanahashi, Y. and Takeda, H.: Relationship between seasonal and annual total pollen counts of *Cryptomeria japonica* and Cupressaceae and number of outpatient with Sugi pollinosis in central Japan. *Rev. Palaeobot. Palynol.* 64, 79-86 (1990).
- (21) Namba, H., Saitou, K., Sahashi, N., Yamamoto, M., Yoshida, T., Ogasawara, H., Fuzimoto, M. and Asada, N.: Relationship between pollen counts of *Cryptomeria japonica* and Cupressaceae and the severity of allergic symptoms. *Jpn. J. Allergol.* 50, 133-142 (2001).
-

2014年 8月 30日

日本花粉学会  
会長 佐橋 紀男 殿

申請者氏名 岡田 啓司  
連絡先 〒729-0141



広島県尾道市高須町 5738 アブコ東尾道薬局  
TEL0848-56-1593 FAX 0848-56-1693

### 転載許可申請書

貴会が著作権を有する下記の出版物の図表等の転載を許可されたく、添付書類を添えて、申請いたします。

#### 記

##### 【転載元著作物】

著者（全員）：岡田啓司、豊田芳彦、石田制利、清水秀樹、宮野良隆、山口巧、難波弘行  
タイトル：「初期療法におけるスギ花粉症患者の治療コストと治療満足度」  
転載対象（花粉学会会誌巻・号・ページ・図表番号等）：花粉誌 60（1）、5-12（2014）  
該当のページをコピーして添付します。

##### 【転載先著作物】

著者（全員）：岡田啓司、豊田芳彦、石田制利、清水秀樹、宮野良隆、山口巧、難波弘行  
タイトル：「初期療法におけるスギ花粉症患者の治療コストと治療満足度」  
掲載予定誌・発行者：「中国・四国空中花粉研究会誌 難波 弘行」  
出版予定年月：（2014年12月）  
改変を加えた図表を添付いたします。

##### 修正点(添付)

Fig.4

*Cryptomeria obtusa* → *Cryptomeria japonica*

*Chamaecyparis japonica* → *Chamaecyparis obtusa*

以上

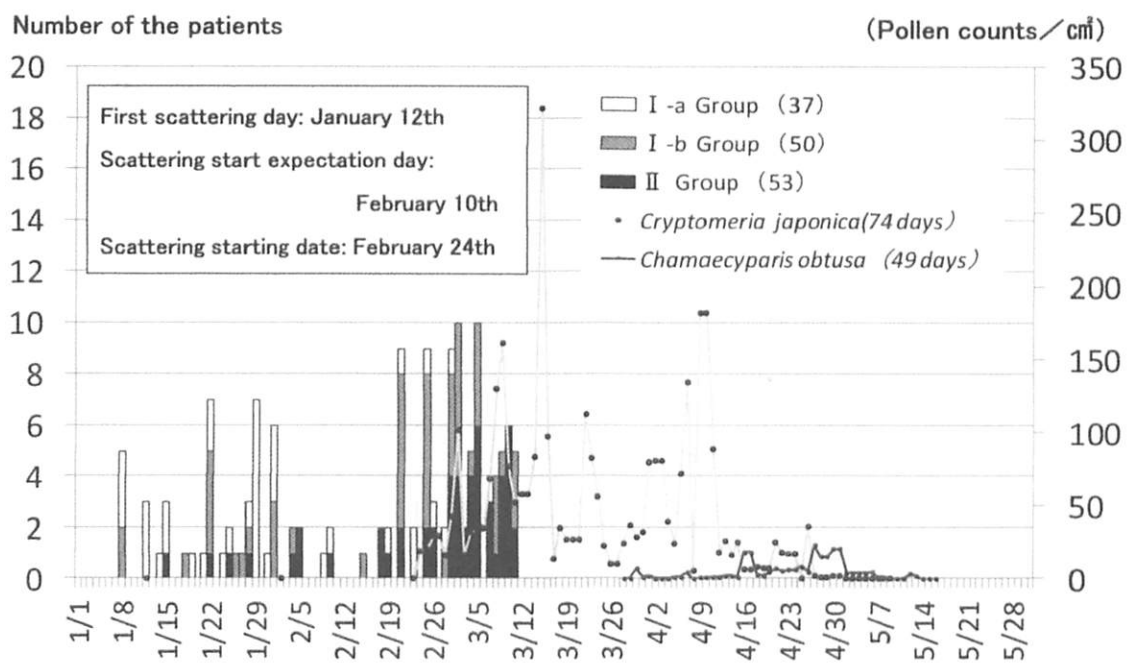


Fig. 4. 岡田 啓司 縮尺 60%

## 30年間のヒノキ科スギ属・ヒノキ属の花粉飛散状況（山口県東部） —私の花粉測定奮闘記—

光輝病院内科 西川恵子

### 【はじめに】

最近では春先の年中行事のように、メディアにスギ花粉症のニュースが流れるようになりました。スギ花粉症は堀口申作先生・斉藤洋三先生が1963年に学会発表<sup>1)</sup>、1964年に論文にされています。私とスギ花粉症の本格的な出会いは山口県宇部市にある山口大学附属病院から山口県東部の柳井市にある周東総合病院耳鼻科に赴任した1982年2月です。堀口先生・斉藤先生の報告からすると約20年後になります。私が赴任する以前の周東総合病院の耳鼻科外来は非常勤での診療が行われていたので、私が常勤で勤務を始めた当初は患者さんが少なく、毎日がのんびりとした診療でした。ところが3月に入るころから突然患者さんがドット押しかけてきました。それも目が充血して腫れて涙目、顔も赤く腫れて鼻先が赤く、鼻閉が強くて夜間不眠があり、一日ティッシュ2箱も使うほど鼻汁が止まらないといった重症のアレルギー性鼻炎患者ばかりでした。私は暇な時より多忙になると張り切るタイプで、まだ20代だった私は頑張って毎日毎日診療に精を出しました。しかしこれほどひどい鼻炎の原因がその時直ぐには分かりませんでした。ところが桜の花が散ってしまった4月下旬には外来患者さんがパツパツ減ってしまい狐に摘ままれたような感じでした。柳井市は瀬戸内海に面し、かつては海運で栄えた商都の白壁の街並みが有名で、工業地帯では無いので空気はきれいで、大気汚染などの公害とは縁のない所です。当初は空気中に大気汚染物質はもちろん、花粉などの鼻炎を起こす何かは空中を飛んでいるとは思いませんでした。しかし翌年の3月にも同様の鼻炎患者さんが突然多数来院される様になったので、これは空気中に公害物質等ではなく、田舎なのでスギ花粉か何かは飛んでいる。しかも大学病院のある宇部市とは比較にならない程の大量の花粉が飛んでいるはず！と確信に変わりました。

### 【花粉測定の始まり】

スギ花粉の飛散数の測定をしようと、本を読んだり大学の先輩に聞いたりして、試しにスライドグラスを外に置いてみたりしました。しかし花粉を同定するにも、花粉を計測するにも自信が持てませんでした。ある日K製薬会社のMRさんと談笑している時に、私が「花粉症と植物なら幾瀬マサ先生の本があるんだけど、もうその本は絶版で売ってないのよ。」と話していたら、そのMRさんは古本屋を探して幾瀬マサ著「日本植物の花粉」を



私にプレゼントして下さいました。しかし本は手に入ったけどまだ充分やり方が理解できてなくて困っている等々と、他のMRさんとも色々おしゃべりしていたら、今度はE製薬会社のMRさんが、私が東京学会出張の時に、東邦大学の幾瀬マサ先生とご面会できるかもしれないという思いがけない話を手配して下さいました。あいにく幾瀬先生はすでに退官されていたのでお目にかかれませんでした。代わりに同じ東邦大学の佐橋紀男先生にお会いすることができました。佐橋先生は花粉測定の方法、花粉採取のやり方、光学顕微鏡での観察同定方法等、初対面にもかかわらず手取り足取り教えて下さいました。また御親切にも帰りには小ビン入ったスギ、ヒノキ、マツ、カモガヤ、ブタクサ等の花粉標本をプレゼントして下さいました。これで私はもう花粉測定をやるしかないと決意しました。

そこで1984年から周東総合病院5階屋上にダーラム型花粉補集器を置いて空中花粉測定を開始しました。この時の助っ人が検査室のK技師長でした。2人であれこれ工夫を凝らして何とか測定を軌道に乗せることができました。その後に検査室の細菌検査係のT女史に花粉カウントを担当して頂く事になりました。これ以降検査室の細菌検査担当者は花粉計測を業務の一つとして代々担って頂くようになりました。私にはこの援軍がとてもありがたかったものでした。

休日も含めて毎朝8時～9時の間にスライドグラスを交換し、染色して光学顕微鏡で覗くとおびただしい花粉が見えました。カギ形に曲がったパピラを持つ球形のスギ花粉でした。初めの3年間はスギとヒノキの花粉の区別がうまくつけられなかったので全部スギ花粉としてカウントしていました。後日残っていたプレパラートを見直すと、その当時はヒノキ花粉の数が極端に少なく、ヒノキ花粉数を0（ゼロ）としてもあながち間違いでは無いだろうと思いました。だんだん慣れてくると染色性の差、パピラの有無、細胞内容物の位置、飛散時期の差等で、私にもスギ花粉・ヒノキ花粉の両者を見分けられるようになりました。柳井市のような空気がきれいで理想的な環境の中でも、自然植物であるスギ花粉の空中飛散が、大気汚染物質も顔負けする程ひどいアレルギー性鼻炎を多発させているとは思ってもよらないことでした。

耳鼻科外来で患者さんに治療法を聞かれると「ここは空気もきれいで、植物（樹木）も元気いっぱいたくさん花粉を作って飛ばすからあきらめなさい。」とからかうと、患者さんは「センセイ！寝られないからあきらめるのは無理！」等々答えてくれました。「それなら眼鏡とマスクをつけて、毎日薬を飲んで外になるべく出ないようにすること〜。」と言うと、「もっと簡単な方法はないの？」と聞かれました。「それでは今の季節だけ沖縄に行くか北海道に行くかはたまたハワイに行ったらいいよ〜。」等々の珍問答？をしていたものでした。私には花粉症の究極の治療法は今では想いつかないけれど、花粉の事がもう少し分かったら、薬も新薬ができていし、もっと効果的な治療ができるはずと考え

益々花粉症の診療にのめりこみました。

### 【花粉測定の発展】

やがて検査室の細菌検査担当者の皆さんは屋上の色々な場所でも花粉測定してくださるようになりました。私は屋上だけでなく玄関前の庭の地上1.2mでも花粉測定を続けました。これらの測定結果を比較解析をして調べたりして、花粉飛散状況を院内掲示するだけでなく、山口県医師会の花粉情報<sup>2)</sup>などにも提供しました。花粉測定や花粉症の啓蒙には検査室だけでなく、院内職員の花粉症の方も花粉症では無い方にも、有形無形の援助を頂き感謝しています。

花粉測定方法も当初ダーラム型だけでしたが、その後ダーラム型と同じ重力法のISロータリー型や体積法のバーカード型も5階屋上に設置して花粉測定を始めました。このバーカード型花粉補集器の円形のドラムに幅1.4cmのメリメックステープを貼って、7日間一周するように設定すると、1週間分の経時的な花粉飛散状況を調べることができません。しかし毎日の花粉飛散状況をその日に直ぐ調べることはできません。ドラムは1時間に2mm進むので1日分が4.8cmとなり、テープの長さに応じた時間ごとの花粉飛散量が測定できます。1週間毎にテープを回収し、テープを切って2.4cm長の12時間分とし、さらに縦に半分に切って2.4×0.7cmのテープとし、それをスライドグラスにグリセリンジェリー（ゲンチアナバイオレットで花粉が紫色に染色）で包埋して、光学顕微鏡で12時間ごとの花粉数をカウントしました。バーカード型で捕らえられた花粉はととても数が多く、特に花粉シーズン中の花粉数は半端でないため、カウントには非常に時間がかかり、診療時間が終わってからも残業したものでした。一方屋上は風当たりも強く、バーカード型花粉補集器はそれなりに大きいので風圧で破損することが多く、吹き飛ばされた部品で人や物が傷ついたりしたら大変だと傷害保険を掛けたり、修理の度に高額な部品を海外から取寄せるなどの出費と、修理に日数がかかり花粉測定が時々中断されてしまった事は思わぬ誤算でした。とうとう最後は台風で修理をあきらめざるを得ないほど破損し、危険防止に撤去するはめになりました。結局私にはバーカード型には1人で悪戦苦闘した苦い思い出だけが残されました。後日国立病院機構福岡病院の岸川禮子先生<sup>3)</sup>からバーカード型の花粉測定は真ん中の部分を光学顕微鏡下の1視野だけでカウントする簡単な方法がある事を聞いて目からうろこだったのを覚えています。この簡単な測定方法をもっと早く知っていたら、バーカード型花粉補集器でせっかく手に入れたたくさんのデータを見直すことも可能で、周東総合病院改装工事の引っ越し作業の時に破棄しなかつたらと悔やまれました。またISロータリー型での花粉測定は、ダーラム型の約5~10倍の多量の花粉をカウントするので大変手がかかるのにもかかわらず、検査室の花粉測定担当者の皆さんが20数

年測定を継続してくださいました。その時の大変貴重なデータも私が手元に置きながら、統計解析等にもっと有効に活用してこなかった事もこれまた後悔しています。

### 【花粉測定の結果】

1984年から毎年続けて周東総合病院で花粉測定を行っていましたが、1994年に町立大和病院に転勤しました。町立大和病院でも花粉測定は行いましたが、周東総合病院での測定は平行してそのまま継続しました。そして2001年に「ひらお」耳鼻咽喉科医院を開院してからも周東総合病院の花粉測定を続けてきました。周東総合病院での花粉測定が続けられたのは、同じ耳鼻科医である夫が毎日のスライドガラス交換を受け持ってくれたおかげで、2010年に彼が周東総合病院を退職する日まで続けました。2011年からは「ひらお」耳鼻咽喉科医院のみで測定し、2013年に閉院するまで花粉測定を続けました。

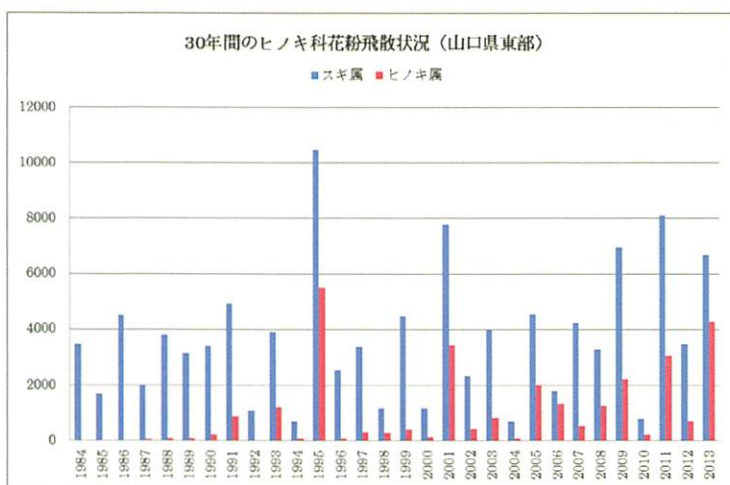
周東総合病院の旧5階病棟屋上では1984年から2007年まで測定し、周東総合病院の改築工事があった2006年から2010年までは新館南棟7階で測定しました（2006年と2007年は旧病棟5階屋上と新館南棟7階で同時測定）。その後2010年から2013年まで「ひらお」耳鼻咽喉科医院の庭での地上1.5mで測定しました（2010年は周東総合病院新館南棟7階と「ひらお」耳鼻科医院の庭で同時測定）。ちなみに「ひらお」耳鼻咽喉科医院は周東総合病院から直線距離で約3kmの所にありました。花粉測定の場所選びは大切で、たとえ同じ屋上の東側と西側の場所といった少し離れた場所でも花粉の数は同じ値ではありませんでした。しかし花粉の飛散パターンとしてみると屋上でも地上でも、また3kmほど離れた場所でも、ほぼ同じ増減を繰り返していることに気づきました。また屋上と地上ではスギ花粉、ヒノキ花粉のような樹木花粉は屋上の方が多く、イネ科花粉、ヨモギ花粉のような草本花粉では屋上より地上の方が多く測定されました。

（図1）はダーラム型で測定した30年間の毎春のスギ花粉数、ヒノキ花粉数を棒グラフにしたものです。1984年から1986年の3年間はヒノキ花粉が区別できていないのでスギ花粉数のみとなっています。1984年から2007年までの24年間は周東総合病院旧5階病棟屋上の飛散数です。2008年から2010年までの3年間は周東総合病院新館南棟7階の飛散数です。2011年から2013年の3年間は「ひらお」耳鼻咽喉科医院の庭での飛散数です。花粉測定にはPhobus-Blakly液（ゲンチアナバイオレットで花粉は紫色に染色）を滴下して、カバーガラスをつけて1.8×1.8cm全面をカウント後3.24で割って1cm当たりの花粉数としました。なおグラフ作成の基になる30年間の毎春のスギ花粉数、ヒノキ花粉数（表1）を記載しておきました。また私が花粉測定を始めた1980年代当時の周東総合病院の空中（写真1）も掲載させていただきました。

	スギ属	ヒノキ属
1984	3470	0
1985	1691	0
1986	4512	0
1987	2009	61
1988	3789	80
1989	3131	90
1990	3416	228
1991	4924	871
1992	1089	29
1993	3923	1200
1994	698	74
1995	10465	5497
1996	2546	67
1997	3396	313
1998	1168	290
1999	4488	408
2000	1175	125
2001	7774	3437
2002	2327	426
2003	3983	835
2004	691	77
2005	4543	2006
2006	1796	1325
2007	4237	514
2008	3280	1264
2009	6943	2231
2010	802	213
2011	8125	3050
2012	3471	714
2013	6692	4289

(表 1)

30年間のヒノキ科スギ属  
ヒノキ属花粉飛散総数  
(山口県東部)



(図 1) 30年間のヒノキ科花粉飛散状況  
(山口県東部) ダーラム型 (個/cm<sup>2</sup>)



(写真 1) 1980年代の周東総合病院全景

【最後に】

30年間でスギ花粉・ヒノキ花粉が多く飛散したのが1995年，2001年，2009年，2011年，2013年でした．これらの数値は測定場所が30年間全く同一では無く，おなじ測定場所でも周囲のスギ林が伐採された年もあり，病院増改築により建物の配置が異なったりしており，測定された花粉飛散数をそのまま単純に比較することはできません．しかし近年は花粉飛散の多い年が続いている印象を受けています．

スギ花粉はDNA分類体系準拠の新科名ではヒノキ科スギ属花粉，ヒノキ花粉はヒノキ科ヒノキ属花粉と名前が変わりました．でも医学の分野ではスギ花粉症の名前はそのまま受け継がれていくのでしょう．2014年の夏の天候不順で，7，8月の雨量は今まで経験の無い多大な量を記録した状況だったので，2015年度のスギ花粉・ヒノキ花粉の飛散予測は

なかなか難しくなっているのではないのでしょうか。この9月中旬にはいつも観察しているスギの木にはすでに花芽が着いていました。2015年春のスギ花粉・ヒノキ花粉の飛散数は少ないとは思われません。しかし来年の予測は毎年難しい（当たらない？）と言うのが私の印象です。

このたびは貴重な発表の機会を与えて頂いた難波弘行会長はじめ研究会の皆様、また私が花粉症研究、花粉測定に際して多大なご援助ご協力を賜りました佐橋紀男先生をはじめ他の皆様方に深謝いたします。

#### 【引用文献】

- 1) 花粉症環境保健マニュアル2014 環境省2014年改訂版
- 2) 山口県医師会ホームページ<http://www.yamaguchi.med.or.jp/>
- 3) Kishikawa R, M-Horiuti T, Togawa A, Kondoh Y, Janzy PD, Goldblum RM, Kotoh E, Shimoda T, Shoji S, Nishima S, Brooks EG: [Juniper pollen monitoring by Burkard sampler in Galveston, Texas, USA and Japanese cedar pollen counting in Fukuoka, Japan -- introduction of Pan American Aerobiology Association protocol counting technique]. *Arerugi*; 2004 Jun;53(6):582-8 .( PMID: 15247520.)

## 新規入会者紹介

今回、新たに2名の先生方が当研究会にご入会いただくことになりました。  
自己紹介 自己アピールを頂いております。

藤木利之 (Fujiki Toshiyuki)

### 経歴・現職

1997年3月 岡山理科大学理学研究科材質理学専攻単位取得満期退学

1998年4月 国際日本文化研究センター 研究員

2003年10月 名古屋大学大学院環境学研究科 COE研究員

2009年10月 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員

2012年6月 福岡大学 国際火山噴火史情報研究所 ポストドクター

2014年4月 岡山理科大学理学部基礎理学科講師



### 趣味・特技

台湾や上海の友人の所に遊びに行くと、小旅行するのがストレス解消になっています。

暇を見つけてはフラッと帰っています。

現在、中国の留学生に中国語を習っていますが、まだまだ流暢には話せません。

### 自己アピール

三好先生の研究室に所属していた時には、備讃空中花粉研究会に参加させていただきました。

卒業して以来の16年ぶりの参加です。出戻りですが、皆様よろしく願いたします。

私は花粉の形態研究と花粉分析による古植生変遷の研究を中心に行っております。

現在は日本産花粉図鑑の第二版の出版を頑張っております。

私は三好研究室に配属して以来、花粉症でとても苦しんでいました。

しかし、12年ほど前に京都で近所のとある医師から針治療を受け、その直後から全く症状がなくなり、現在は花粉症とは無関係の体に戻りました。

来年から本学でも空中花粉の測定を開始しようと考えております。

何卒、よろしく願いたします。

木村 裕子 (Kimura Hiroko)

岡山県倉敷市出身

#### 経歴

岡山理科大学 理学部 基礎理学科卒業

岡山理科大学大学院 理学研究科 総合理学専攻修了

岡山理科大学大学院 理学研究科 材質理学専攻修了 博士 (理学)

#### 現職

岡山理科大学 理学部 基礎理学科 非常勤講師

山陽女子高等学校 非常勤講師

#### 趣味

ピアノ

#### 一言

仕事, 研究, 育児, 趣味, どれもマイペースでやっています.

少しずつ, 少しずつ, 前へ…がんばりたいと思います.

## 食べ歩き 第5回

紹介者：香川県 秋山貢佐

昨年の鳥取の市谷先生よりバトンを受けて、報告させていただきます。香川といえどももちろんさぬきうどんですが、うどん以外にもよいものはたくさんあります。うどん屋は県内に腐るほど存在しますが、たいていは夕方には閉店しています。そのため夜飲んだ帰りにうどんを食べられる店はそれほど多くありません。また夜やっているうどん屋は総じてレベルが高いとは言えず（あくまで私の個人的な印象ですが）、昼間には到底行こうとは思わない店ばかりです。高松の商店街にある、某うどん屋の某カレーうどんはガイドブックなどでも取り上げられて県内外で有名ですが、かの椎名誠も「女子大生が喜んでたべる程度のもの」と酷評するほどのので、加ト吉にボンカレーをのつけた程度のものです。そこで私がお勧めしたいのが、寺岡餃子店という餃子屋です。

本店は丸亀市にあります（丸亀製麺のように丸亀の名を騙ってはいません）。数年前に高松に進出し、現在は片原町、瓦町（東京でいえば新宿、六本木にあたると思われる、高松の中心地です）に2店舗存在しています。なぜこの餃子がよいかといいますと、おそらくここ以外では存在しない、変わった食べ方の餃子であるからであります。餃子といえば餃子のたれ+ラー油というのが一般的ですが、この店ではたれで食べている人はほとんどいません。気になる食べ方は以下の通りです。まずたれを入れる小皿にテーブル備え付けのコショウを、小山ができるくらいまで盛ります。そこに餃子についてくるスダチを絞ってコショウを箸でかき混ぜてやります。これをたれとして餃子を食します。聞いただけではとてもおいしそうには聞こえないでしょうが、食べてみるとこれが非常においしいのです。このような食べ方は発想できるものではなく、非常に意外な組み合わせなのですが、奇をてらうだけでなく実力も兼ね備えております。初めての人を連れていくと、餃子がおいしいのに加えて新しい発見があるためか非常に喜んでいただけ、こちらも満足感と優越感を得られます。

香川にお越しの際は、うどんだけをたべるのではなく、ぜひこちらにも足を運んでみてください。宇都宮や高知の餃子などもおいしいですが、あらたな感動というのはないと思います。ここでは全く新しい、未知なる餃子が味わえます。

今回は広島岡田先生、よろしくお願いいたします。





## 中国・四国空中花粉研究会会則

1990年12月1日  
制 定  
改正2006年1月1日  
改正2008年1月1日  
改正2014年1月1日

第1条：本会は中国・四国空中花粉研究会（Chugoku-Shikoku Airborne pollen Society）と称する。

第2条：本会は空中飛散花粉の調査、観測、花粉学の研究、花粉症に関連する調査研究、および一般住民に対して花粉症の予防、症状の軽減化を図るための情報提供などを行う。

第3条：本会の事業は次のとおりとする。

- 1) 各観測地点において決められた期間、主としてヒノキ科（スギ属、ヒノキ属）植物の空中飛散花粉の計測を行い、決められた時間に気象協会に報告し、気象協会において気象データおよび予報をもとに、翌日の飛散数の予測値を各報道機関に予報として情報提供する。情報提供する報道機関については気象協会に一任する。
- 2) 会員は学術活動に心がけ、学会報告、論文発表、また花粉に関する正しい情報を一般に知らせる様にする。また、本会会員は学術活動に伴う資料として、本会の資料を用いる場合、あらかじめ当該資料の作成者に許諾を得ることとする。
- 3) 年1回会誌（中国・四国空中花粉研究会誌：Annual report of Chugoku-Shikoku Airborne pollen Society）を発行する。会誌はその年の花粉観測記録、その他花粉に関する研究、本会の資料を使用して行った発表、その他随筆、感想文等で会員相互の学術、親睦の記録とする。

第4条：本会員は次によって構成する。

- 1) 正会員：第3条の目的に賛同し活動する個人
- 2) 施設会員：飛散空中花粉の計測を行い、データを報告する。正会員1名以上が所属する必要がある。
- 3) 賛助会員：第3条の目的に賛同し、本会の活動を支援し、花粉のデータを会則

に従って情報提供できる権利を持つ。

新たに会員になる事を希望するものは、会員1名の推薦が必要であり代表者の承認が必要である。また、3年以上総会欠席または、連絡の取れない会員については、脱会を希望したものとして脱会をみとめる。

第5条：会の運営は会費と寄付金で行う。

- 1) 正会員会費：正会員からは会費を徴収しない。
- 2) 施設会員：年3000円とする。
- 3) 協賛会費：情報の利用度に応じ、一口20000円で最高10口を負担する。本会の総会、各協議会参集時には別に、出席者に定められた額の旅費を支給する。データを報告する施設会員には、毎年総会で決められた一定の花粉観測補助費を支給する。

第6条：本会は年2回総会を開催し、会務を審議決定する。総会の議決は出席全員の過半数による。代表が必要と認めた時は、臨時総会を開催できる。

第7条：本会に次の幹事、役員をおき、必要時に会の運営について協議し、総会に議案を提出する。

代表者、副代表、庶務担当幹事、書記担当幹事、会計担当幹事、編集委員長、各県より会員数に応じて1名から数名の県担当幹事、気象協会担当幹事および会計監査担当幹事1名の役員をおく。幹事、役員は総会において選出する。

会誌の係りにおいては補佐のため、編集委員を数名おくことが出来る。会計は年1回会計報告を行い、その収支を会員に報告する。

第8条：本会の幹事、役員の任期は1月1日より翌年12月31日までの2年間とする。また改選時の再任はさまたげない。

第9条：会計年度は、1月1日より12月31日までとする。

附則

この会則は、1990年12月1日より施行する。

附則（2006年1月1日）

この会則は、2006年1月1日より施行する。

附則（2008年1月1日）

この会則は、2008年1月1日より施行する。

附則（2014年1月1日）

この会則は、2014年1月1日より施行する。

## 「中国・四国空中花粉研究会誌」 投稿規程

1. 本会の会員は「中国・四国空中花粉研究会誌」に投稿することができる。この場合、非会員との連名原稿も受理する。
2. 編集委員会から会員または非会員に投稿の依頼をすることがある。
3. 2. によらない非会員からの投稿があった場合は、編集委員会および幹事会にはかり受理の可否を決定する。
4. 投稿内容については特に規定しない。
5. 原稿はワープロソフト（ワード）を使用して横書きとする。ワードを使用する場合は、A4版白紙に印字した原稿（字数行数は問わない）と、テキスト形式で保存したフロッピーディスク又はCD-Rなどのメディアとを同時に提出する。メールでの入校も可とするが、ワードで作成したファイルを添付し編集委員長に提出する。
6. 原稿には表題、著者名、所属、本文、引用文献を含むことを原則とする。
7. 表題・著者名ともに30字以内の柱（ランニング・タイトル：各ページ上部欄外の見出し）原稿を付ける。
8. 句読点は、ピリオド（.）カンマ（,）とする。
9. 数字、英字は1マス2字（半角）、句読点、カッコ、:、;などは1マス分（全角）とする。
10. 字体の種類は、次の要領で原稿に指定するか、ワードにて対応する書体で記述する。
  - ・イタリック体（生物・化石の学名など）：赤で1本の下線
  - ・小キャピタル体（英字の人名など）：赤で2本の下線
  - ・ゴシック体：赤で波線の下線
11. 刷り上がりはA4版、本文は1段組とする。
12. 図、表、写真の大きさは、編集委員で決定するが、刷り上がり2ページ（見開き）を限度とする。図は黒インクまたはプリンター等で明瞭に書き、完成したものを提出するか、エクセル、パワーポイントにて作成したファイルをメールに添付して提出する。
13. 図、表、写真には番号だけを記入し、題名・説明文は、別の原稿用紙にまとめて記入する。または、エクセル、パワーポイントで作成したファイルを提出する場合、表は左上に、図は左下に番号とともに題名・説明文を記載する。
14. 原稿の欄外に、図・表・写真の挿入箇所を赤字で指定する。投稿者がレイアウト原稿を作成する必要はない。メールにて原稿ファイルを提出する場合、本文に赤字で図、表、写真の番号を加えて挿入する。

原稿送付先：761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750番地1 香川大学医学部耳鼻咽喉科  
(秋山貢佐)

(原稿送付先 E-mail: kakaka@med.kagawa-u.ac.jp

mailto:hnamba@cc.matsuyama-u.ac.jp)

## 中国 四国空中花粉研究会 2014年度～ 役員

顧問：三好教夫，斎藤勝剛，岡 鐵雄，唐木將行

代表：難波弘行（松山大学薬学部）

副代表：名部 誠（矢掛町国民健康保険病院）

庶務：小林英治（小林耳鼻咽喉科醫院）

会計：岡崎彰徳（備前市立日生病院）

編集委員長：秋山貢佐（香川大学医学部耳鼻咽喉科）

副編集委員長：小林隆一（綾川町国民健康保険陶病院）

書記：藤木利之（岡山理科大学理学部基礎理学科）

### 幹事

岡山県担当幹事：岡野光博（岡山大学医学部耳鼻咽喉科）

鳥取県担当幹事：市谷年弘（市谷地球環境研究所）

山口県担当幹事：日吉正明（ひよしクリニック）

愛媛県担当幹事：檜垣義光

徳島県担当幹事：大林秀樹（ひかり薬局八万店）

気象協会四国地方担当幹事：樋口宜寿（一般財団法人日本気象協会東京本社）

気象協会中国地方担当幹事：森山 剛（一般財団法人日本気象協会中国支店）

会計監査：岡田啓司（アプロコ東尾道薬局）

---

中国・四国空中花粉研究会誌 第25号 2014年12月1日

平成26年12月1日印刷・発行

編集 「中国・四国空中花粉研究会誌」編集委員会

発行 中国・四国空中花粉研究会

事務局：香川大学医学部

（〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750番地1 TEL：087-891-2214）

庶務：香川大学医学部

（〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750番地1 TEL：087-891-2214）

会計：備前市立日生病院

（〒701-3202 岡山県備前市日生町寒河2570-41 TEL：0869-72-1111）

---

# 資料の部

## (2014年1月～5月)

### スギ・ヒノキ花粉実測数

- ・ 岡山県
- ・ 広島県
- ・ 島根県
- ・ 鳥取県
- ・ 山口県
- ・ 香川県
- ・ 愛媛県









【松山大学薬学部】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時~翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.9	63.9	0.0	63.9	24.1	620.1	644.2	0.0	0.3	0.3
2	0.0	0.0	0.0	29.0	0.0	29.0	219.1	0.0	219.1	8.6	215.1	223.7	0.0	0.9	0.9
3	0.0	0.0	0.0	12.7	0.0	12.7	529.3	0.0	529.3	5.2	82.7	87.9	0.0	2.7	2.7
4	0.0	0.0	0.0	10.8	0.0	10.8	166.0	0.0	166.0	0.6	23.1	23.7	0.0	2.2	2.2
5	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	52.2	0.0	52.2	0.3	3.7	4.0	0.0	0.6	0.6
6	0.3	0.0	0.3	4.0	0.0	4.0	33.3	0.0	33.3	0.3	2.8	3.1	0.0	0.3	0.3
7	0.3	0.0	0.3	3.4	0.0	3.4	95.4	0.0	95.4	0.0	0.9	0.9	0.0	1.2	1.2
8	0.3	0.0	0.3	1.2	0.0	1.2	16.0	0.0	16.0	0.6	47.2	47.8	0.0	2.5	2.5
9	0.9	0.0	0.9	4.0	0.0	4.0	30.9	0.3	31.2	0.3	36.4	36.7	0.0	1.2	1.2
10	0.2	0.0	0.2	7.7	0.0	7.7	8.3	0.0	8.3	9.0	146.6	155.6	0.0	3.1	3.1
11	0.2	0.0	0.2	7.7	0.0	7.7	51.2	0.0	51.2	1.5	149.1	150.6			
12	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.9	47.5	2.2	49.7	0.0	13.0	13.0			
13	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	11.7	1.5	13.2	0.0	9.0	9.0			
14	0.3	0.0	0.3	3.4	0.0	3.4	41.4	0.6	42.0	3.7	48.5	52.2			
15	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	69.4	0.9	70.3	0.0	5.9	5.9			
16	0.0	0.0	0.0	10.5	0.0	10.5	28.7	12.7	41.4	0.0	5.2	5.2			
17	0.0	0.0	0.0	17.0	0.0	17.0	63.9	7.7	71.6	0.0	4.0	4.0			
18	0.0	0.0	0.0	30.4	0.0	30.4	25.9	2.8	28.7	0.0	13.5	13.5			
19	0.0	0.0	0.0	30.4	0.0	30.4	30.6	0.3	30.9	1.9	113.9	115.8			
20	0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	6.2	14.8	0.9	15.7	0.0	48.5	48.5			
21	0.3	0.0	0.3	12.3	0.0	12.3	12.7	0.6	13.3	0.0	19.4	19.4			
22	0.0	0.0	0.0	43.8	0.0	43.8	13.0	0.3	13.3	0.0	22.8	22.8			
23	0.0	0.0	0.0	47.5	0.0	47.5	7.1	6.5	13.6	0.0	15.7	15.7			
24	0.6	0.0	0.6	33.6	0.0	33.6	28.7	114.2	142.9	0.3	123.8	124.1			
25	0.0	0.0	0.0	30.9	0.0	30.9	11.7	70.4	82.1	0.0	51.1	51.1			
26	0.9	0.0	0.9	41.7	0.0	41.7	1.5	6.2	7.7	0.0	51.1	51.1			
27	0.0	0.0	0.0	28.1	0.0	28.1	67.9	41.0	108.9	0.0	51.1	51.1			
28	0.0	0.0	0.0	608.3	0.0	608.3	212.0	834.0	1046.0	0.0	4.9	4.9			
29	0.9	0.0	0.9				62.7	89.8	152.5	0.0	4.9	4.9			
30	0.6	0.0	0.6				3.1	16.7	19.8	0.0	0.9	0.9			
31	1.9	0.0	1.9				21.3	129.9	151.2						
上旬	2.0	0.0	2.0	80.3	0.0	80.3	1214.4	0.3	1214.7	49.0	1178.6	1227.6	0.0	15.0	15.0
中旬	0.5	0.0	0.5	116.7	0.0	116.7	385.1	29.6	414.7	7.1	410.6	417.7	0.0	0.0	0.0
下旬	5.2	0.0	5.2	846.2	0.0	846.2	441.7	1309.6	1751.3	0.3	345.7	346.0	0.0	0.0	0.0
月	7.7	0.0	7.7	1043.2	0.0	1043.2	2041.2	1339.5	3380.7	56.4	1934.9	1991.3	0.0	15.0	15.0

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(1月1日~5月10日)  
6437.9  
内訳 スギ 3148.5  
内訳 ヒノキ 3289.4  
《飛散開始日》  
1月31日  
《飛散終了日》  
5月10日(観測終了日)  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
43日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【福山臨床高松支所】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時~翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1						2.2			9.4			100.9			5.6
2						2.2			9.4			134.0			3.6
3						1.1			25.9			238.0			3.6
4			0.0			0.3			33.0			77.5			3.6
5			0.0			0.3			4.6			2.9			0.6
6			0.0			0.0			12.5			2.9			0.6
7			0.0			0.0			45.7			15.1			1.9
8			0.0			0.0			14.0			67.0			2.5
9			0.3			0.0			14.0			250.3			0.6
10			0.0			0.0			16.7			246.0			1.7
11			0.0			0.0			77.5			47.2			1.7
12			0.0			0.0			180.2			16.4			
13			0.0			0.0			17.8			16.4			
14			0.0			0.0			10.3			72.8			
15			0.0			0.3			120.2			82.1			
16			0.0			0.3			120.2			75.5			
17			0.0			0.0			497.2			100.9			
18			0.0			0.3			142.0			21.9			
19			0.0			0.0			96.6			40.3			
20			0.3			0.2			9.3			40.3			
21			0.0			0.0			9.3			6.9			
22			0.0			0.8			16.2			10.0			
23			0.0			0.8			16.2			31.2			
24			0.0			9.6			370.2			55.1			
25			0.2			8.0			107.1			22.4			
26			0.2			45.8			3.2			41.1			
27			0.0			0.3			52.6			41.1			
28			0.0			20.2			543.8			3.7			
29			0.6						251.2			3.7			
30			0.0						251.2			4.0			
31			0.0						40.4						
上旬	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	185.2	0.0	0.0	1134.6	0.0	0.0	24.3
中旬	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1271.3	0.0	0.0	513.8	0.0	0.0	1.7
下旬	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	85.5	0.0	0.0	1661.4	0.0	0.0	219.2	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	92.7	0.0	0.0	3117.9	0.0	0.0	1867.6	0.0	0.0	26.0

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(1月1日~5月10日)  
5105.8  
内訳 スギ 0.0  
内訳 ヒノキ 0.0  
《飛散開始日》  
2月1日  
《飛散終了日》  
5月11日(観測終了日)  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
35日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【エンジェル薬局】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1							14.9	0.0	14.9	134.6	30.2	164.8	0.0	0.1	0.1
2							14.9	0.0	14.9	57.4	372.5	429.9	0.0	0.0	0.0
3				0.6	0.0	0.6	10.8	0.0	10.8	32.4	629.6	662.0	0.0	0.0	0.0
4				0.0	0.0	0.0	24.7	0.0	24.7	0.3	24.1	24.4	0.0	0.0	0.0
5				0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.3	14.8	15.1	0.0	0.0	0.0
6				0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	0.3	14.8	15.1	0.0	0.0	0.0
7				0.0	0.0	0.0	69.1	0.0	69.1	0.6	53.4	54.0	0.0	0.0	0.0
8				0.0	0.0	0.0	9.9	0.0	9.9	0.0	1550.0	1550.0	0.0	0.0	0.0
9				0.0	0.0	0.0	9.9	0.0	9.9	0.0	713.9	713.9	0.0	0.0	0.0
10				0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0	338.9	338.9	0.0	0.0	0.0
11				0.0	0.0	0.0	23.8	0.0	23.8	0.3	51.2	51.5			
12				0.0	0.0	0.0	180.0	0.0	180.0	0.0	122.4	122.4			
13				0.1	0.0	0.1	38.0	0.0	38.0	0.0	122.4	122.4			
14				0.1	0.0	0.1	7.1	0.0	7.1	0.0	90.1	90.1			
15				0.1	0.0	0.1	83.3	0.0	83.3	0.0	330.6	330.6			
16				0.1	0.0	0.1	83.3	0.0	83.3	0.0	96.0	96.0			
17				0.2	0.0	0.2	318.0	0.0	318.0	0.0	155.2	155.2			
18				0.2	0.0	0.2	60.8	0.0	60.8	0.0	37.0	37.0			
19				0.0	0.0	0.0	215.7	0.0	215.7	0.0	32.4	32.4			
20				0.0	0.0	0.0	163.1	0.0	163.1	0.0	32.4	32.4			
21				0.0	0.0	0.0	163.1	0.0	163.1	0.0	4.3	4.3			
22				0.0	0.0	0.0	70.9	0.7	71.6	0.0	11.1	11.1			
23				0.0	0.0	0.0	70.9	0.7	71.6	0.0	11.7	11.7			
24				0.6	0.0	0.6	70.9	0.7	71.6	0.0	8.5	8.5			
25				11.1	0.0	11.1	40.7	3.1	43.8	0.0	8.5	8.5			
26				1.9	0.0	1.9	5.7	0.0	5.7	0.0	4.3	4.3			
27				0.0	0.0	0.0	54.3	1.0	55.3	0.0	4.3	4.3			
28				13.0	0.0	13.0	137.2	6.6	143.8	0.0	0.1	0.1			
29							137.2	6.6	143.8	0.0	0.1	0.1			
30							137.2	6.6	143.8	0.0	0.1	0.1			
31							40.7	11.1	51.8						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	169.7	0.0	169.7	225.9	3742.2	3968.1	0.0	0.1	0.1
中旬	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	1173.1	0.0	1173.1	0.3	1069.7	1070.0	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	26.6	0.0	26.6	928.8	37.1	965.9	0.0	53.0	53.0	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	28.0	0.0	28.0	2271.6	37.1	2308.7	226.2	4864.9	5091.1	0.0	0.1	0.1

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
7427.9  
内訳 スギ  
2525.8  
内訳 ヒノキ  
4902.1  
《飛散開始日》  
2月25日  
《飛散終了日》  
5月1日  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
36日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【なでしこ薬局】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	3.9	37.0	512.3	549.3	0.0	0.1	0.1
2				0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	3.9	9.3	1074.1	1083.4	0.0	0.1	0.1
3				0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	12.3	1052.5	1064.8	0.0	0.1	0.1
4				0.0	0.0	0.0	21.0	0.0	21.0	0.6	64.8	65.4	0.0	0.1	0.1
5				0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	1.2	4.6	5.8	0.0	0.1	0.1
6				0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	1.2	4.6	5.8	0.0	0.1	0.1
7				0.0	0.0	0.0	33.0	0.0	33.0	2.8	54.9	57.7	0.0	0.8	0.8
8				0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	5.1	12.3	1086.4	1098.7	0.0	0.8	0.8
9				0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	5.1	9.3	1067.9	1077.2	0.0	0.0	0.0
10				0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	12.3	314.9	327.2	0.0	0.0	0.0
11				0.0	0.0	0.0	33.6	0.0	33.6	1.9	50.6	52.5			
12				0.0	0.0	0.0	84.5	0.0	84.5	3.1	142.0	145.1			
13				0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8	3.1	142.0	145.1			
14				0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	83.3	83.3			
15				0.2	0.0	0.2	80.7	0.0	80.7	0.0	382.7	382.7			
16				0.2	0.0	0.2	80.7	0.0	80.7	0.0	126.5	126.5			
17				0.2	0.0	0.2	583.3	0.0	583.3	0.0	142.0	142.0			
18				0.2	0.0	0.2	30.2	0.0	30.2	0.0	27.2	27.2			
19				0.0	0.0	0.0	189.5	0.0	189.5	0.0	64.7	64.7			
20				0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	13.6	0.0	64.7	64.7			
21				0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	13.6	0.0	1.5	1.5			
22				0.2	0.0	0.2	46.8	0.0	46.8	0.0	3.7	3.7			
23				0.2	0.0	0.2	46.8	0.0	46.8	0.0	5.2	5.2			
24				8.0	0.0	8.0	123.5	6.2	129.7	0.3	4.6	4.9			
25				26.9	0.0	26.9	25.0	13.9	38.9	0.0	1.5	1.5			
26				1.5	0.0	1.5	1.5	0.0	1.5	0.0	1.9	1.9			
27				0.0	0.0	0.0	38.3	3.4	41.7	0.0	1.9	1.9			
28				0.9	0.0	0.9	46.3	129.6	175.9	0.0	0.0	0.0			
29							8.3	237.5	245.8	0.0	0.0	0.0			
30							8.3	237.5	245.8	0.0	0.1	0.1			
31							15.4	37.0	52.4						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	86.8	0.0	86.8	98.3	5237.0	5335.3	0.0	2.2	2.2
中旬	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	1101.4	0.0	1101.4	8.1	1225.7	1233.8	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	37.7	0.0	37.7	373.8	665.1	1038.9	0.3	20.4	20.7	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	38.5	0.0	38.5	1562.0	665.1	2227.1	106.7	6483.1	6589.8	0.0	2.2	2.2

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
8857.6  
内訳 スギ  
1707.2  
内訳 ヒノキ  
7150.4  
《飛散開始日》  
2月24日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
34日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【こやま薬局江崎店】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.5	0.0	0.5	2.3	0.0	2.3	12.8	116.3	129.1	0.0	0.9	0.9
2				0.5	0.0	0.5	2.3	0.0	2.3	3.4	37.8	41.2	0.0	0.9	0.9
3				4.4	0.0	4.4	10.9	0.0	10.9	3.4	37.8	41.2	0.0	0.9	0.9
4				0.9	0.0	0.9	4.1	0.0	4.1	3.4	37.8	41.2	0.0	0.9	0.9
5				0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	5.2	0.2	1.6	1.8	0.0	0.9	0.9
6				0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	5.2	0.2	1.6	1.8	0.0	0.9	0.9
7				0.0	0.0	0.0	9.4	0.0	9.4	0.9	4.4	5.3	0.1	0.4	0.5
8				0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	6.9	2.5	40.9	43.4	0.1	0.4	0.5
9				0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	6.9	2.5	50.9	53.4	0.1	0.4	0.5
10				0.0	0.0	0.0	6.6	0.0	6.6	2.5	50.9	53.4	0.0	0.5	0.5
11				0.0	0.0	0.0	26.3	0.0	26.3	3.1	13.8	16.9	0.0	0.5	0.5
12				0.1	0.0	0.1	43.9	0.0	43.9	0.5	15.9	16.4			
13				0.1	0.0	0.1	43.9	0.0	43.9	0.5	15.9	16.4			
14				0.1	0.0	0.1	20.3	0.0	20.3	3.8	26.3	30.1			
15				0.2	0.0	0.2	54.4	0.0	54.4	3.8	47.8	51.6			
16				0.2	0.0	0.2	54.4	0.0	54.4	1.3	14.4	15.7			
17				0.0	0.0	0.0	407.5	3.1	410.6	1.3	14.4	15.7			
18				0.0	0.0	0.0	61.9	1.9	63.8	1.3	21.5	22.8			
19				0.0	0.0	0.0	16.5	0.2	16.7	1.3	21.5	22.8			
20				0.0	0.0	0.0	16.5	0.2	16.7	1.3	21.5	22.8			
21				0.3	0.0	0.3	16.5	0.2	16.7	0.0	2.5	2.5			
22				0.0	0.0	0.0	10.8	1.3	12.1	0.0	44.4	44.4			
23				0.0	0.0	0.0	10.8	1.3	12.1	0.2	24.1	24.3			
24				1.6	0.0	1.6	61.9	16.6	78.5	0.2	24.1	24.3			
25				4.7	0.0	4.7	20.6	7.2	27.8	0.9	14.1	15.0			
26				0.9	0.0	0.9	11.1	0.6	11.7	0.0	38.8	38.8			
27				0.9	0.0	0.9	11.1	0.6	11.7	0.0	38.8	38.8			
28				11.9	0.0	11.9	85.9	277.8	363.7	0.5	2.8	3.3			
29							30.3	26.1	56.4	0.5	2.8	3.3			
30							30.3	26.1	56.4	0.0	0.9	0.9			
31							10.6	67.8	78.4						
上旬	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	59.8	0.0	59.8	31.8	380.0	411.8	0.3	7.1	7.4
中旬	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	745.6	5.4	751.0	18.2	213.0	231.2	0.0	0.5	0.5
下旬	0.0	0.0	0.0	20.3	0.0	20.3	299.9	425.6	725.5	2.3	193.3	195.6	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0	27.3	1105.3	431.0	1536.3	52.3	786.3	838.6	0.3	7.6	7.9

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
2409.6

内訳 スギ 1185.2  
内訳 ヒノキ 1224.4

《飛散開始日》  
2月24日

《飛散終了日》

《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
23日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【たかの橋中央病院】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.8	0.0	0.8	10.0	0.0	10.0	1.9	41.7	43.6	0.3	2.7	3.0
2				0.8	0.0	0.8	10.0	0.0	10.0	1.2	34.8	36.0	0.1	0.6	0.7
3				1.5	0.0	1.5	32.7	0.0	32.7	1.9	38.3	40.2	0.1	0.6	0.7
4				1.2	0.0	1.2	37.3	0.0	37.3	1.2	4.0	5.2	0.1	0.6	0.7
5				0.3	0.0	0.3	32.0	0.0	32.0	0.2	1.9	2.1	0.1	0.6	0.7
6				0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.2	1.9	2.1	0.1	0.6	0.7
7				0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	4.6	0.3	1.2	1.5	0.6	0.0	0.6
8				0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	4.0	34.9	38.9	0.3	0.0	0.3
9				0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	3.2	2.4	9.3	11.7	0.0	0.3	0.3
10				0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	1.5	14.5	16.0	0.6	1.2	1.8
11				0.0	0.0	0.0	8.6	0.0	8.6	0.0	6.5	6.5	0.6	1.2	1.8
12				0.3	0.0	0.3	34.2	0.0	34.2	0.8	10.2	11.0			
13				0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	5.2	0.8	10.2	11.0			
14				0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	0.3	7.4	7.7			
15				0.0	0.0	0.0	10.9	0.0	10.9	0.6	8.0	8.6			
16				0.0	0.0	0.0	10.9	0.0	10.9	0.3	4.6	4.9			
17				0.0	0.0	0.0	7.4	0.0	7.4	0.0	10.2	10.2			
18				0.6	0.0	0.6	4.9	0.0	4.9	0.0	1.2	1.2			
19				0.6	0.0	0.6	18.0	0.6	18.6	1.1	8.6	9.7			
20				0.9	0.0	0.9	3.2	0.3	3.5	1.1	8.6	9.7			
21				1.2	0.0	1.2	3.2	0.3	3.5	0.0	0.9	0.9			
22				3.4	0.0	3.4	7.7	3.2	10.9	0.9	10.2	11.1			
23				3.4	0.0	3.4	7.7	3.2	10.9	0.6	4.6	5.2			
24				5.9	0.0	5.9	12.9	38.8	51.7	0.6	17.9	18.5			
25				38.0	0.0	38.0	9.0	19.8	28.8	0.6	4.9	5.5			
26				4.9	0.0	4.9	0.9	0.6	1.5	0.3	9.4	9.7			
27				4.9	0.0	4.9	9.0	14.5	23.5	0.3	9.4	9.7			
28				36.1	0.0	36.1	3.0	51.5	54.5	0.0	1.2	1.2			
29							1.6	32.9	34.5	0.0	1.2	1.2			
30							1.6	32.9	34.5	0.9	1.9	2.8			
31	0.0	0.0	0.0				2.4	12.9	15.3						
上旬	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	4.6	138.6	0.0	138.6	14.8	182.5	197.3	2.3	7.2	9.5
中旬	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	105.5	0.9	106.4	5.0	75.5	80.5	0.6	1.2	1.8
下旬	0.0	0.0	0.0	97.8	0.0	97.8	59.0	210.6	269.6	4.2	61.6	65.8	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	104.8	0.0	104.8	303.1	211.5	514.6	24.0	319.6	343.6	2.9	8.4	11.3

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
972.5

内訳 スギ 434.2  
内訳 ヒノキ 538.3

《飛散開始日》  
2月3日

《飛散終了日》

《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
14日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【ひよしクリニック】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				2.2	0.0	2.2	163.3	0.0	163.3	2.8	221.9	224.7	0.0	0.0	0.0
2				65.1	0.0	65.1	263.0	0.0	263.0	3.7	296.3	300.0	0.0	0.0	0.0
3				61.4	0.0	61.4	499.4	0.0	499.4	0.0	11.7	11.7	0.0	0.0	0.0
4				8.3	0.0	8.3	61.7	0.0	61.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
5				0.9	0.0	0.9	191.7	0.0	191.7	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
6				3.4	0.0	3.4	19.4	0.0	19.4	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0
7				2.2	0.0	2.2	88.9	0.0	88.9	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0
8				0.3	0.0	0.3	17.3	0.0	17.3	0.3	29.6	29.9	0.0	0.0	0.0
9				1.9	0.0	1.9	32.1	0.0	32.1	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0
10				3.4	0.0	3.4	20.4	0.0	20.4	0.0	20.7	20.7	0.0	0.0	0.0
11				1.5	0.0	1.5	35.8	0.0	35.8	0.6	24.7	25.3	0.0	0.0	0.0
12				4.0	0.0	4.0	28.7	0.0	28.7	0.0	15.7	15.7			
13				3.4	0.0	3.4	7.1	0.0	7.1	0.9	20.1	21.0			
14				4.6	0.0	4.6	44.4	0.0	44.4	0.0	11.7	11.7			
15				7.4	0.0	7.4	34.4	0.0	34.4	0.0	12.7	12.7			
16				25.0	0.0	25.0	34.4	0.0	34.4	0.0	4.6	4.6			
17				16.4	0.0	16.4	85.2	0.0	85.2	0.0	1.5	1.5			
18				21.9	0.0	21.9	62.0	0.0	62.0	0.0	2.8	2.8			
19				60.2	0.0	60.2	37.3	0.0	37.3	0.0	9.3	9.3			
20				13.9	0.0	13.9	32.1	8.0	40.1	0.0	5.6	5.6			
21				32.7	0.0	32.7	0.9	0.0	0.9	0.0	0.3	0.3			
22				189.8	0.0	189.8	9.9	5.9	15.8	0.0	4.0	4.0			
23				84.6	0.0	84.6	4.0	3.7	7.7	0.0	0.6	0.6			
24				92.0	0.0	92.0	11.4	274.7	286.1	0.0	3.7	3.7			
25				223.8	0.0	223.8	7.1	12.7	19.8	0.0	1.9	1.9			
26				25.6	0.0	25.6	1.2	7.1	8.3	0.0	10.8	10.8			
27				1.2	0.0	1.2	15.4	101.9	117.3	0.0	0.9	0.9			
28				354.3	0.0	354.3	1.9	84.0	85.9	0.0	0.3	0.3			
29							1.2	8.3	9.5	0.0	0.3	0.3			
30							0.0	13.9	13.9	0.0	0.0	0.0			
31	0.9	0.0	0.9				3.7	66.0	69.7						
上旬	0.0	0.0	0.0	149.1	0.0	149.1	1357.2	0.0	1357.2	6.8	610.5	617.3	0.0	0.0	0.0
中旬	0.0	0.0	0.0	158.3	0.0	158.3	401.4	8.0	409.4	1.5	108.7	110.2	0.0	0.0	0.0
下旬	0.9	0.0	0.9	1004.0	0.0	1004.0	56.7	578.2	634.9	0.0	22.8	22.8	0.0	0.0	0.0
月	0.9	0.0	0.9	1311.4	0.0	1311.4	1815.3	586.2	2401.5	8.3	742.0	750.3	0.0	0.0	0.0

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
4463.2  
内訳 スギ  
3135.0  
内訳 ヒノキ  
1328.2  
《飛散開始日》  
2月1日  
《飛散終了日》  
4月30日  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
30日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【みやの耳鼻咽喉科】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				3.2	0.0	3.2	36.1	0.0	36.1	14.8	8.3	23.1	0.0	1.2	1.2
2				3.2	0.0	3.2	36.1	0.0	36.1	19.8	5.2	25.0	0.0	0.6	0.6
3				8.3	0.0	8.3	100.9	0.0	100.9	35.8	8.6	44.4	0.0	0.6	0.6
4				0.6	0.0	0.6	37.3	0.0	37.3	54.0	18.5	72.5	0.0	0.6	0.6
5				0.0	0.0	0.0	35.2	0.0	35.2	1.2	0.0	1.2	0.0	0.6	0.6
6				0.0	0.0	0.0	50.6	0.0	50.6	1.2	0.0	1.2	0.0	0.6	0.6
7				0.0	0.0	0.0	45.1	0.0	45.1	2.2	0.3	2.5	0.0	0.9	0.9
8				0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	18.8	10.5	0.0	10.5	0.0	1.5	1.5
9				0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	18.8	19.1	0.6	19.7	0.0	0.3	0.3
10				0.2	0.0	0.2	22.8	0.0	22.8	30.6	7.4	38.0	0.2	1.5	1.7
11				0.2	0.0	0.2	59.0	0.0	59.0	4.9	14.5	19.4	0.2	1.5	1.7
12				0.0	0.0	0.0	44.8	0.0	44.8	2.5	14.5	17.0			
13				0.3	0.0	0.3	20.7	0.0	20.7	2.5	14.5	17.0			
14				0.0	0.0	0.0	53.1	0.0	53.1	2.8	21.3	24.1			
15				2.3	0.0	2.3	76.7	0.0	76.7	3.1	30.9	34.0			
16				2.3	0.0	2.3	76.7	0.0	76.7	1.2	13.0	14.2			
17				0.6	0.0	0.6	188.0	1.5	189.5	0.3	10.8	11.1			
18				1.2	0.0	1.2	36.1	0.3	36.4	0.0	10.5	10.5			
19				0.3	0.0	0.3	45.4	0.6	46.0	1.1	14.2	15.3			
20				0.6	0.0	0.6	21.6	0.0	21.6	1.1	14.2	15.3			
21				1.9	0.0	1.9	21.6	0.0	21.6	0.0	10.8	10.8			
22				1.9	0.0	1.9	27.3	0.5	27.8	0.3	5.9	6.2			
23				1.9	0.0	1.9	27.3	0.5	27.8	0.0	11.1	11.1			
24				8.3	0.0	8.3	66.0	2.5	68.5	0.9	13.9	14.8			
25				35.8	0.0	35.8	28.7	2.8	31.5	0.9	13.9	14.8			
26				7.4	0.0	7.4	1.2	0.3	1.5	1.7	37.7	39.4			
27				4.0	0.0	4.0	76.5	1.9	78.4	1.7	37.7	39.4			
28				25.3	0.0	25.3	185.5	57.1	242.6	0.2	2.3	2.5			
29							82.1	13.1	95.2	0.2	2.3	2.5			
30							82.1	13.1	95.2	0.0	3.4	3.4			
31	0.3	0.0	0.3				10.5	2.2	12.7						
上旬	0.0	0.0	0.0	15.5	0.0	15.5	401.7	0.0	401.7	189.2	48.9	238.1	0.2	8.4	8.6
中旬	0.0	0.0	0.0	7.8	0.0	7.8	622.1	2.4	624.5	19.5	158.4	177.9	0.2	1.5	1.7
下旬	0.3	0.0	0.3	86.5	0.0	86.5	608.8	94.0	702.8	5.9	139.0	144.9	0.0	0.0	0.0
月	0.3	0.0	0.3	109.8	0.0	109.8	1632.6	96.4	1729.0	214.6	346.3	560.9	0.4	9.9	10.3

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
2408.3  
内訳 スギ  
1957.2  
内訳 ヒノキ  
451.1  
《飛散開始日》  
2月1日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
28日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

### 【安芸太田病院】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1						0.5			32.1			508.0			1.5
2						0.5			32.1			434.3			0.3
3						1.5			161.4			383.3			0.3
4						0.3			64.8			12.6			0.3
5						0.0			20.7			12.6			0.3
6						0.0			10.2			12.6			0.3
7						0.0			10.1			46.9			0.0
8						0.0			10.1			192.3			0.6
9						0.0			10.1			444.1			0.0
10						0.0			3.7			141.0			0.0
11						0.0			40.1			79.9			0.0
12						0.3			98.5			79.9			
13						0.0			15.1			79.9			
14						1.0			46.1			47.8			
15						1.0			46.1			229.3			
16						1.0			46.1			135.2			
17						0.0			296.3			115.1			
18						0.6			36.7			22.2			
19						0.0			111.4			22.2			
20						2.2			38.6			22.2			
21						11.3			38.6			24.1			
22						11.3			38.6			13.3			
23						11.3			38.6			31.5			
24						9.6			130.1			28.1			
25						6.2			16.1			16.9			
26						0.3			0.6			16.9			
27						0.0			28.8			16.9			
28						32.1			167.8			16.9			
29									167.8			16.9			
30									167.8			0.6			
31			0.0						26.2						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	355.3	0.0	0.0	2187.7	0.0	0.0	3.6
中旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	775.0	0.0	0.0	833.7	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	82.1	0.0	0.0	821.0	0.0	0.0	182.1	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.0	0.0	0.0	1951.3	0.0	0.0	3203.5	0.0	0.0	3.6

### シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
5249.4  
内訳 スギ  
内訳 ヒノキ  
《飛散開始日》  
2月14日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
36日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

### 【岡山医学検査センター】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1						0.3			6.0			19.1			2.5
2						0.3			6.0			21.6			0.7
3						0.3			10.9			7.1			0.7
4						0.3			7.4			11.4			0.7
5						0.0			55.6			0.9			0.7
6						0.0			21.0			0.9			0.7
7						0.0			38.9			2.2			0.9
8						0.0			20.8			3.1			0.9
9						0.0			20.8			4.3			0.9
10						0.0			20.4			6.2			0.8
11						0.0			67.9			6.8			0.8
12						0.0			81.8			2.6			
13						0.0			16.0			2.6			
14						0.0			34.0			2.5			
15						0.0			11.4			15.4			
16						0.0			11.4			4.3			
17						0.0			134.6			0.9			
18						0.0			80.3			4.6			
19						0.0			71.0			9.3			
20						0.0			35.8			9.3			
21						0.0			35.8			4.6			
22						0.0			10.7			1.5			
23						0.0			10.7			6.5			
24						1.5			164.8			0.6			
25						10.8			18.5			7.1			
26						2.2			7.7			0.3			
27						1.5			45.1			0.3			
28						15.4			48.4			1.8			
29									39.3			1.8			
30									39.3			0.3			
31			0.0						12.3						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	207.8	0.0	0.0	76.8	0.0	0.0	9.5
中旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	544.2	0.0	0.0	58.3	0.0	0.0	0.8
下旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.4	0.0	0.0	432.6	0.0	0.0	24.8	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.6	0.0	0.0	1184.6	0.0	0.0	159.9	0.0	0.0	10.3

### シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
1386.6  
内訳 スギ  
内訳 ヒノキ  
《飛散開始日》  
2月24日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
15日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3







【呉共済病院】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時~翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.8	0.0	0.8	59.4	0.0	59.4	0.0	80.6	80.6	0.0	0.9	0.9
2				0.8	0.0	0.8	59.4	0.0	59.4	0.6	104.0	104.6	0.0	0.6	0.6
3				3.7	0.0	3.7	54.9	2.8	57.7	0.6	10.2	10.8	0.0	0.6	0.6
4				0.9	0.0	0.9	38.3	0.9	39.2	0.7	2.4	2.5	0.0	0.6	0.6
5				0.0	0.0	0.0	14.2	1.2	15.4	0.7	2.4	2.5	0.0	0.6	0.6
6				0.9	0.0	0.9	8.6	0.0	8.6	0.7	2.4	2.5	0.0	0.6	0.6
7				0.0	0.0	0.0	18.8	0.5	19.3	0.0	0.3	0.3	0.0	0.3	0.3
8				0.0	0.0	0.0	18.8	0.5	19.3	0.0	38.3	38.3	0.0	0.0	0.0
9				0.0	0.0	0.0	18.8	0.5	19.3	0.3	6.8	7.1	0.0	0.6	0.6
10				0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	51.5	51.5	0.0	0.6	0.6
11				0.0	0.0	0.0	15.1	1.9	17.0	0.7	3.0	3.7	0.0	0.6	0.6
12				0.3	0.0	0.3	17.0	2.2	19.2	0.7	3.0	3.7			
13				0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.7	3.0	3.7			
14				1.2	0.0	1.2	11.4	5.3	16.7	0.0	1.5	1.5			
15				1.2	0.0	1.2	11.4	5.3	16.7	0.0	38.8	38.8			
16				1.2	0.0	1.2	11.4	5.3	16.7	0.0	10.8	10.8			
17				2.5	0.0	2.5	5.9	7.1	13.0	0.0	4.9	4.9			
18				0.0	0.0	0.0	8.0	1.9	9.9	0.0	16.9	16.9			
19				1.2	0.0	1.2	4.1	6.2	10.3	0.0	16.9	16.9			
20				0.6	0.0	0.6	6.6	2.2	8.8	0.0	16.9	16.9			
21				6.1	0.0	6.1	6.6	2.2	8.8	0.0	10.5	10.5			
22				6.1	0.0	6.1	6.6	2.2	8.8	0.0	9.6	9.6			
23				6.1	0.0	6.1	6.6	2.2	8.8	0.0	21.3	21.3			
24				14.2	0.0	14.2	2.5	105.9	108.4	0.0	20.3	20.3			
25				16.7	0.0	16.7	0.6	22.8	23.4	0.0	15.3	15.3			
26				11.1	0.0	11.1	0.0	1.9	1.9	0.0	15.3	15.3			
27				2.5	0.0	2.5	9.0	15.4	24.4	0.0	15.3	15.3			
28				59.4	0.0	59.4	0.9	85.6	86.5	0.0	2.9	2.9			
29							0.9	85.6	86.5	0.0	2.9	2.9			
30							0.9	85.6	86.5	0.0	0.0	0.0			
31	0.8	0.0	0.8				0.0	30.6	30.6						
上旬	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	295.5	6.4	301.9	1.8	298.9	300.7	0.0	5.4	5.4
中旬	0.0	0.0	0.0	8.2	0.0	8.2	95.2	37.4	132.6	0.3	115.7	116.0	0.0	0.6	0.6
下旬	0.8	0.0	0.8	122.2	0.0	122.2	34.6	440.0	474.6	0.0	113.4	113.4	0.0	0.0	0.0
月	0.8	0.0	0.8	137.5	0.0	137.5	425.3	483.8	909.1	2.1	528.0	530.1	0.0	6.0	6.0

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日~5月10日)  
1582.1  
内訳 スギ  
564.9  
内訳 ヒノキ  
1017.2  
《飛散開始日》  
2月14日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
15日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【佐伯北診療所】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時~翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1							7.0	0.0	7.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
2				0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	7.0	0.0	17.0	17.0	0.0	7.0	7.0
3				0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0
4				0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0
5				0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0
6				0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	15.0	0.0	9.3	9.3	0.0	0.0	0.0
7				0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	22.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0
8				0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	22.0	0.0	15.0	15.0	0.0	0.0	0.0
9				0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	22.0	0.0	37.0	37.0	0.0	0.0	0.0
10				0.0	0.0	0.0	9.0	0.0	9.0	0.0	90.0	90.0	0.0	0.0	0.0
11				0.0	0.0	0.0	22.0	0.0	22.0	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0
12				0.0	0.0	0.0	21.0	0.0	21.0	0.0	3.3	3.3			
13				0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	8.0	0.0	3.3	3.3			
14				-	-	-	43.0	0.0	43.0	0.0	13.0	13.0			
15				-	-	-	43.0	0.0	43.0	0.0	13.0	13.0			
16				-	-	-	43.0	0.0	43.0	0.0	11.0	11.0			
17				0.0	0.0	0.0	122.0	0.0	122.0	0.0	7.0	7.0			
18				0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	15.0	0.0	4.0	4.0			
19				1.0	0.0	1.0	23.0	0.0	23.0	0.0	4.0	4.0			
20				3.0	0.0	3.0	12.0	0.0	12.0	0.0	4.0	4.0			
21				0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	12.0	0.0	15.0	15.0			
22				0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	12.0	0.0	3.0	3.0			
23				0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	12.0	0.0	14.0	14.0			
24				4.0	0.0	4.0	9.0	0.0	9.0	0.0	19.0	19.0			
25				2.0	0.0	2.0	13.0	1.0	14.0	0.0	11.0	11.0			
26				1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	11.0			
27				0.0	0.0	0.0	19.0	0.0	19.0	0.0	11.0	11.0			
28				7.0	0.0	7.0	4.0	0.0	4.0	0.0	2.5	2.5			
29							4.0	0.0	4.0	0.0	2.5	2.5			
30							4.0	0.0	4.0	0.0	2.0	2.0			
31							28.0	0.0	28.0						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	149.0	0.0	149.0	3.0	196.9	199.9	0.0	7.0	7.0
中旬	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	352.0	0.0	352.0	0.0	65.9	65.9	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	14.0	117.0	1.0	118.0	0.0	91.0	91.0	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	18.0	618.0	1.0	619.0	3.0	353.8	356.8	0.0	7.0	7.0

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日~5月10日)  
1000.8  
内訳 スギ  
639.0  
内訳 ヒノキ  
361.8  
《飛散開始日》  
2月19日  
《飛散終了日》  
5月3日  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
6日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

※2月1日、2月14日~16日、3月27日のデータがありましたら追記をお願い致します。

### 【三次地区医師会】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1						0.3			109.4			412.0			3.1
2						0.3			109.4			334.9			0.0
3						1.2			47.8			154.6			0.0
4						0.0			120.1			13.6			0.0
5						0.0			49.1			4.6			0.0
6						0.0			41.0			4.6			0.0
7						0.0			44.4			18.5			0.9
8						0.0			14.4			131.2			1.2
9						0.0			14.4			140.1			2.8
10						0.0			2.7			13.8			2.8
11						0.0			46.3			50.0			2.8
12						0.0			99.4			24.1			2.8
13						0.0			8.6			24.1			
14						0.0			32.7			4.9			
15						1.1			60.3			51.5			
16						1.1			60.3			62.3			
17						0.6			77.5			60.5			
18						0.3			16.4			14.5			
19						0.0			112.7			42.9			
20						0.9			—			42.9			
21						2.2			—			0.3			
22						0.8			25.5			2.2			
23						0.8			25.5			1.2			
24						8.3			67.3			35.2			
25						29.6			40.1			28.1			
26						0.0			2.8			38.3			
27						0.3			70.4			38.3			
28						20.7			286.1			1.5			
29									115.0			1.5			
30									115.0			5.3			
31			0.0						24.4						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	552.7	0.0	0.0	1227.9	0.0	0.0	10.8
中旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	514.2	0.0	0.0	377.7	0.0	0.0	5.6
下旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.7	0.0	0.0	772.1	0.0	0.0	151.9	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.5	0.0	0.0	1839.0	0.0	0.0	1757.5	0.0	0.0	16.4

### シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
3675.8  
内訳 スギ  
内訳 ヒノキ  
《飛散開始日》  
2月15日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
34日  
斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

### 【地球環境研究所】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	11.1	12.0	0.0	0.0	0.0
2				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	16.7	17.0	0.0	0.3	0.3
3				0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0
4				0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0
6				0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0
8				0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0
9				0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0
10				1.2	0.0	1.2	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11				0.6	0.0	0.6	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0			
12				0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	0.0	0.3	0.3			
13				0.0	0.0	0.0	—	—	—	0.0	0.0	0.0			
14				0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.3	0.3			
15				0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	1.5	1.5			
16				0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.9	0.0	0.6	0.6			
17				0.0	0.0	0.0	31.5	0.0	31.5	0.0	0.9	0.9			
18				0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0			
19				0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0			
20				0.0	0.0	0.0	6.2	0.0	6.2	0.0	0.0	0.0			
21				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
22				1.9	0.0	1.9	0.6	0.0	0.6	0.0	0.3	0.3			
23				0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0			
24				0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	0.9	0.9			
25				0.3	0.0	0.3	7.1	1.2	8.3	0.0	1.9	1.9			
26				0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
27				0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.6	0.6			
28				0.3	0.0	0.3	0.0	24.4	24.4	0.0	0.0	0.0			
29							0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0			
30							0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0			
31	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0						
上旬	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	8.3	0.0	8.3	1.2	32.7	33.9	0.0	0.3	0.3
中旬	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	49.6	0.0	49.6	0.0	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8	10.8	51.8	62.6	0.0	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	4.6	68.7	51.8	120.5	1.2	40.0	41.2	0.0	0.3	0.3

### シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
166.6  
内訳 スギ  
74.5  
内訳 ヒノキ  
92.1  
《飛散開始日》  
3月15日  
《飛散終了日》  
5月3日  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
1日  
斜字は、複数日の平均値  
例 5.3  
※3月13日は強風により  
スライドガラスが飛んだため  
欠測です。

【津山中央病院】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1						0.5			6.2			106.0			112.8
2						0.5			6.2			415.1			0.9
3						0.0			5.2			101.2			0.9
4						0.0			7.4			18.0			0.9
5						0.0			2.2			18.0			0.9
6						0.6			0.3			18.0			0.9
7						0.0			7.6			8.6			19.1
8						0.0			7.6			12.0			36.7
9						0.0			7.6			190.4			34.4
10						0.0			2.2			159.9			34.4
11						0.0			15.4			38.7			34.4
12						0.0			41.4			38.7			
13						0.0			1.5			38.7			
14						0.0			27.0			51.2			
15						0.0			27.0			147.2			
16						0.0			27.0			27.8			
17						0.0			27.0			46.3			
18						0.0			17.6			17.2			
19						0.0			66.0			17.2			
20						0.0			8.6			17.2			
21						1.5			8.6			14.8			
22						1.5			8.6			47.2			
23						1.5			8.6			47.2			
24						0.3			82.1			349.7			
25						0.0			3.4			419.2			
26						0.3			0.9			419.2			
27						0.0			43.8			419.2			
28						6.2			72.7			13.1			
29									72.7			13.1			
30									72.7			112.8			
31			0.5						35.2						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	52.5	0.0	0.0	1047.2	0.0	0.0	241.9
中旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	258.5	0.0	0.0	440.2	0.0	0.0	34.4
下旬	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	11.3	0.0	0.0	409.3	0.0	0.0	1855.5	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0	720.3	0.0	0.0	3342.9	0.0	0.0	276.3

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
4318.0  
内訳 スギ  
内訳 ヒノキ  
《飛散開始日》  
2月21日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
31日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【雲南市】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.0	0.0	0.0	37.0	0.0	37.0	56.0	151.0	207.0	—	—	—
2				0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	18.0	12.0	121.0	133.0	0.0	0.0	0.0
3				0.0	0.0	0.0	—	—	—	5.0	30.0	35.0	0.0	0.0	0.0
4				0.0	0.0	0.0	—	—	—	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0
5				0.0	0.0	0.0	—	—	—	0.0	3.0	3.0	—	—	—
6				0.0	0.0	0.0	—	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7				—	—	—	—	—	—	0.0	20.0	20.0	—	—	—
8				0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	—	—	—	—	—	—
9				0.0	0.0	0.0	54.0	0.0	54.0	—	—	—	—	—	—
10				0.0	0.0	0.0	28.0	0.0	28.0	0.0	3.3	3.3	—	—	—
11				0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	72.0	0.0	1.0	1.0			
12				0.0	0.0	0.0	104.0	0.0	104.0	0.0	2.0	2.0			
13				0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	6.0	6.0			
14				—	—	—	0.3	0.0	0.3	—	—	—			
15				0.0	0.0	0.0	251.0	0.0	251.0	0.0	4.0	4.0			
16				0.0	0.0	0.0	153.0	0.0	153.0	—	—	—			
17				0.0	0.0	0.0	242.0	0.0	242.0	—	—	—			
18				0.0	0.0	0.0	37.0	0.0	37.0	0.0	6.0	6.0			
19				0.0	0.0	0.0	74.0	0.0	74.0	0.0	0.3	0.3			
20				0.3	0.0	0.3	9.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0			
21				0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0			
22				1.2	0.0	1.2	11.0	0.9	11.9	—	—	—			
23				5.2	0.0	5.2	7.0	2.0	9.0	—	—	—			
24				63.0	0.0	63.0	45.0	13.0	58.0	—	—	—			
25				86.0	0.0	86.0	13.0	2.0	15.0	0.0	4.0	4.0			
26				14.0	0.0	14.0	1.8	0.0	1.8	0.0	6.0	6.0			
27				33.0	0.0	33.0	10.0	4.0	14.0	0.0	2.0	2.0			
28				71.0	0.0	71.0	20.0	241.0	261.0	0.0	0.0	0.0			
29							2.0	6.0	8.0	0.0	1.0	1.0			
30							1.2	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0			
31	0.0	0.0	0.0				10.0	23.0	33.0						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	157.0	0.0	157.0	73.0	328.6	401.6	0.0	0.0	0.0
中旬	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	943.3	0.0	943.3	0.0	19.3	19.3	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	273.4	0.0	273.4	125.0	291.9	416.9	0.0	13.0	13.0	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	273.7	0.0	273.7	1225.3	291.9	1517.2	73.0	360.9	433.9	0.0	0.0	0.0

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
2224.8  
内訳 スギ  
1572.0  
内訳 ヒノキ  
652.8  
《飛散開始日》  
2月22日  
《飛散終了日》  
《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
19日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【備前市立日生病院】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.4	0.0	0.4	14.8	0.0	14.8	17.0	33.6	50.6	0.0	2.2	2.2
2				0.4	0.0	0.4	14.8	0.0	14.8	6.2	14.2	20.4	0.0	0.2	0.2
3				1.9	0.0	1.9	34.9	0.0	34.9	20.4	7.1	27.5	0.0	0.2	0.2
4				0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	3.7	9.4	13.1	0.0	0.2	0.2
5				0.0	0.0	0.0	9.6	0.0	9.6	3.7	9.4	13.1	0.0	0.2	0.2
6				0.0	0.0	0.0	14.8	0.0	14.8	3.7	9.4	13.1	0.0	0.2	0.2
7				0.0	0.0	0.0	24.1	0.0	24.1	2.8	0.3	3.1	0.0	1.2	1.2
8				0.0	0.0	0.0	24.1	0.0	24.1	1.5	17.0	18.5	0.0	0.0	0.0
9				0.0	0.0	0.0	24.1	0.0	24.1	1.5	17.0	18.5	0.0	0.4	0.4
10				0.0	0.0	0.0	8.6	0.0	8.6	5.9	24.3	30.2	0.0	0.4	0.4
11				0.0	0.0	0.0	15.7	0.0	15.7	1.1	3.9	5.0	0.0	0.4	0.4
12				0.0	0.0	0.0	163.0	0.0	163.0	1.1	3.9	5.0			
13				0.0	0.0	0.0	12.3	0.0	12.3	1.1	3.9	5.0			
14				0.0	0.0	0.0	53.1	0.0	53.1	5.2	41.1	46.3			
15				0.0	0.0	0.0	53.1	0.0	53.1	0.9	107.7	108.6			
16				0.0	0.0	0.0	53.1	0.0	53.1	1.5	20.3	21.8			
17				0.0	0.0	0.0	426.5	9.3	435.8	1.5	20.3	21.8			
18				0.0	0.0	0.0	105.9	0.9	106.8	1.5	26.6	28.1			
19				0.0	0.0	0.0	62.7	0.9	63.6	1.5	26.6	28.1			
20				0.0	0.0	0.0	15.2	0.2	15.4	1.5	26.6	28.1			
21				0.1	0.0	0.1	15.2	0.2	15.4	0.0	64.5	64.5			
22				0.1	0.0	0.1	15.2	0.2	15.4	0.0	64.5	64.5			
23				0.1	0.0	0.1	15.2	0.2	15.4	0.0	64.5	64.5			
24				2.2	0.0	2.2	22.8	101.0	123.8	0.0	35.5	35.5			
25				2.2	0.0	2.2	24.1	5.2	29.3	0.0	15.5	15.5			
26				1.9	0.0	1.9	2.2	0.9	3.1	0.0	15.5	15.5			
27				0.0	0.0	0.0	36.7	0.0	36.7	0.0	15.5	15.5			
28				14.8	0.0	14.8	20.0	50.4	70.4	0.0	0.8	0.8			
29							20.0	50.4	70.4	0.0	0.8	0.8			
30							20.0	50.4	70.4	0.0	2.5	2.5			
31	0.4	0.0	0.4				19.1	6.2	25.3						
上旬	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	2.7	175.7	0.0	175.7	66.4	141.7	208.1	0.0	5.2	5.2
中旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	960.6	11.3	971.9	16.9	280.9	297.8	0.0	0.4	0.4
下旬	0.4	0.0	0.4	21.4	0.0	21.4	210.5	265.1	475.6	0.0	279.6	279.6	0.0	0.0	0.0
月	0.4	0.0	0.4	24.1	0.0	24.1	1346.8	276.4	1623.2	83.3	702.2	785.5	0.0	5.6	5.6

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
2438.0

内訳 スギ  
1454.2

内訳 ヒノキ  
983.8

《飛散開始日》  
2月24日

《飛散終了日》

《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
21日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【福山臨床福山本社】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1						0.0			5.5			50.9			16.0
2						0.0			17.5			107.8			6.3
3						2.5			19.1			44.1			7.4
4						0.0			35.0			204.9			3.8
5						0.3			12.0			0.6			0.0
6						0.0			22.5			16.6			1.3
7						0.0			13.1			9.5			0.9
8						0.0			13.1			15.4			4.0
9						0.0			6.7			35.8			1.5
10						0.0			7.4			194.1			0.9
11						0.0			13.6			49.3			
12						0.0			22.2			10.8			
13						0.0			13.8			15.7			
14						0.0			42.2			37.2			
15						0.3			59.8			142.0			
16						0.6			46.3			34.4			
17						0.0			121.9			20.9			
18						0.3			92.0			11.6			
19						0.0			8.4			10.9			
20						0.0			9.6			21.0			
21						0.3			13.3			12.9			
22						0.0			19.4			26.8			
23						0.0			80.9			21.3			
24						2.7			69.7			31.5			
25						6.1			61.4			32.0			
26						6.4			5.6			20.6			
27						6.7			69.4			19.6			
28						10.8			280.8			6.6			
29									90.0			3.1			
30									64.5			3.4			
31									86.3						
上旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	151.9	0.0	0.0	679.7	0.0	0.0	42.1
中旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	429.8	0.0	0.0	353.8	0.0	0.0	0.0
下旬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.0	0.0	0.0	841.3	0.0	0.0	177.8	0.0	0.0	0.0
月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.0	0.0	0.0	1423.0	0.0	0.0	1211.3	0.0	0.0	42.1

シーズン総飛散数

《特定期間》  
(2月1日～5月10日)  
2713.4

内訳 スギ  
0.0

内訳 ヒノキ  
0.0

《飛散開始日》  
2月24日

《飛散終了日》

《大量飛散日数》  
(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)  
26日

斜字は、複数日の平均値  
例 5.3

【矢掛町国保病院】花粉年表 2014年

※1cm<sup>2</sup>あたりの花粉数(日付当日09時～翌日09時の24時間飛散数)

日	1月			2月			3月			4月			5月		
	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計	スギ	ヒノキ	合計
1				0.1	0.0	0.1	2.8	0.0	2.8	109.7	0.0	109.7	0.0	4.0	4.0
2				0.1	0.0	0.1	24.4	0.0	24.4	71.0	0.0	71.0	0.0	0.6	0.6
3				0.6	0.0	0.6	51.3	0.0	51.3	71.0	0.0	71.0	0.0	2.5	2.5
4				0.6	0.0	0.6	19.4	0.0	19.4	113.3	0.0	113.3	0.0	2.5	2.5
5				0.0	0.0	0.0	22.8	0.0	22.8	4.0	0.0	4.0	0.0	2.5	2.5
6				0.6	0.0	0.6	50.0	0.0	50.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.5	0.5
7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	153.4	0.0	153.4	1.1	13.1	14.2	0.0	0.5	0.5
8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	153.4	0.0	153.4	1.1	13.1	14.2	0.0	0.2	0.2
9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	10.6	0.0	10.6	4.9	42.9	47.8	0.0	0.2	0.2
10	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	17.2	0.0	17.2	3.2	51.5	54.7	0.0	0.2	0.2
11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.1	0.0	19.1	3.2	51.5	54.7			
12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.5	0.0	32.5	2.9	13.4	16.3			
13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6	0.0	11.6	2.9	13.4	16.3			
14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.2	0.0	44.2	4.6	40.7	45.3			
15	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	44.2	0.0	44.2	0.9	25.0	25.9			
16	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	44.2	0.0	44.2	0.9	25.0	25.9			
17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	190.0	0.0	190.0	1.2	12.0	13.2			
18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.3	0.0	81.3	0.4	30.7	31.1			
19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.4	0.0	29.4	0.4	30.7	31.1			
20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	18.8	0.4	30.7	31.1			
21	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.2	18.8	0.0	18.8	0.3	10.2	10.5			
22	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	18.8	0.0	18.8	0.3	10.2	10.5			
23	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	18.8	0.0	18.8	0.0	24.4	24.4			
24	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	193.1	0.0	193.1	0.0	21.0	21.0			
25	0.2	0.0	0.2	10.3	0.0	10.3	9.9	2.8	12.7	0.0	20.4	20.4			
26	0.2	0.0	0.2	7.5	0.0	7.5	2.2	0.0	2.2	0.0	10.2	10.2			
27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	18.8	0.0	15.1	15.1			
28	1.3	0.0	1.3	14.1	0.0	14.1	175.2	0.0	175.2	0.0	1.5	1.5			
29	0.6	0.0	0.6				175.2	0.0	175.2	0.0	1.5	1.5			
30	0.6	0.0	0.6				175.2	0.0	175.2	0.0	0.6	0.6			
31	0.1	0.0	0.1				103.8	0.0	103.8						
上旬	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	2.6	505.3	0.0	505.3	383.3	120.6	503.9	0.0	13.7	13.7
中旬	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	515.3	0.0	515.3	17.8	273.1	290.9	0.0	0.0	0.0
下旬	3.0	0.0	3.0	38.7	0.0	38.7	909.8	2.8	912.6	0.6	115.1	115.7	0.0	0.0	0.0
月	3.0	0.0	3.0	42.3	0.0	42.3	1930.4	2.8	1933.2	401.7	508.8	910.5	0.0	13.7	13.7

シーズン総飛散数

《特定期間》

(2月1日～5月10日)

2899.7

内訳 スギ

2374.4

内訳 ヒノキ

525.3

《飛散開始日》

2月24日

《飛散終了日》

《大量飛散日数》

(日飛散数30個/cm<sup>2</sup>以上)

26日

斜字は、複数日の平均値

例 5.3

**禁忌** (次の患者には投与しないこと)

- (1) 有効な抗菌剤の存在しない感染症、深在性真菌症の患者 [症状を増悪するおそれがある]
- (2) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**効能・効果** アレルギー性鼻炎

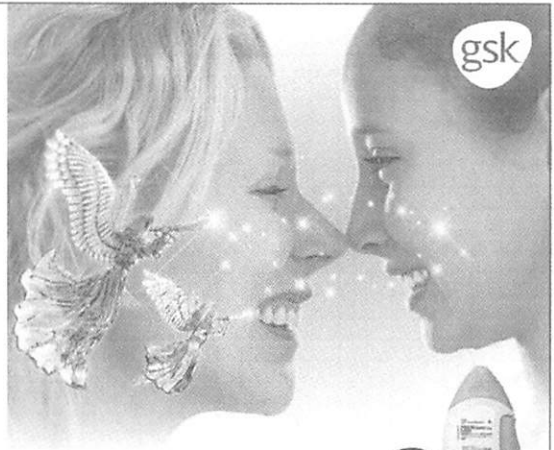
**用法・用量** 成人には、通常1回各鼻腔に2噴霧(1噴霧あたりフルチカゾンフランカルボンエステルとして27.5μg含有)を1日1回投与する。小児には、通常1回各鼻腔に1噴霧(1噴霧あたりフルチカゾンフランカルボンエステルとして27.5μg含有)を1日1回投与する。

**用法・用量に関連する使用上の注意** 1. 本剤の十分な臨床効果を得るためには継続的に使用すること。2. 新しい噴霧器を使用する際には空噴霧を行い(6回程度)、液が完全に霧状になることを確認した後に使用するよう患者に指導すること。なお、同じ噴霧器を2回目に併用する場合には空噴霧は不要であるが、5日以上噴霧器の蓋が外れていた場合は30日以上噴霧器を使用しなかった場合には空噴霧が必要となる場合がある。

**使用上の注意** 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 鼻咽喉感染症の患者 [症状を増悪するおそれがある] (2) 反復性鼻出血の患者 [出血を増悪するおそれがある] 2. 重要な基本的注意 (1) 重症な慢性鼻炎や鼻茸の患者では、本剤の投与期間中の作用を確実にするため、これらの症状がある程度減少するよう他の療法を併用すること。 (2) 本剤の投与期間中に鼻症状の悪化がみられた場合には、抗ヒスタミン剤あるいは、全身性ステロイド剤を短期間併用し、症状の軽減にあわせて併用薬物を徐々に減量すること。 (3) 全身性ステロイド剤の減量は本剤の投入開始後症状の安定をみて徐々に減量し、減量にあたっては一般のステロイド剤の減量法に準ずる。 (4) 長期又は大量の全身性ステロイド療法を受けている患者では副腎皮質機能不全が考えられるので、全身性ステロイド剤の減量中並びに離脱後も副腎皮質機能検査を行い、外傷、手術、重症感染症等の機転には十分に注意を払うこと。また必要があれば一時的に全身性ステロイド剤の増量を行うこと。 (5) 全身性ステロイド剤と比較し可能性は低いが、点鼻ステロイド剤を特に長期用、大量に投与する場合には小児の成長遅延をきたすおそれがある。本剤を小児に長期投与する場合には、定期的身長等の経過の観察を行うこと。また、使用にあたっては、用法を正しく指導すること。 (6) 全身性ステロイド剤の減量並びに離脱に伴って、気管支喘息、ときに湿疹、蕁麻疹、眩暈、動悸、けいこ感、顔のほてり、結膜炎等の症状が発現・増悪することがある(このような症状があらわれた場合には適切な処置を行うこと)。 (7) 過半数アレルギー性鼻炎患者において長期に使用する場合、症状の改善状態維持時には、減量につとめること。 (8) 全身性ステロイド剤と比較し可能性は低いが、点鼻ステロイド剤の投与により全身性の作用(クッシング症候群、クッシング様症状、副腎皮質機能抑制、小児の成長遅延、骨密度の低下、白内障、緑内障を含む)が発現する可能性がある。特に長期用、大量投与の場合には定期的に検査を行い、全身性の作用が認められた場合には適切な処置を行うこと。 3. 相互作用 本剤は、主として肝チトクロームP-450 3A4(CYP3A4)で代謝される。併用注意(併用に注意すること) CYP3A4阻害作用を有する薬剤 リトナビル等 4. 副作用 成人: 過半数アレルギー性鼻炎患者を対象とした臨床試験(2週間投与)において、80例中6例(7.5%)に臨床検査値異常を含む副作用が報告された。その主なものは血中コレステロール減少2例(2.5%)であった。また、12週間投与した長期試験において、65例中1例(1.5%)に臨床検査値異常を含む副作用として白血球数増加1例(1.5%)が報告された(承認時)。季節性アレルギー性鼻炎患者を対象とした臨床試験(2週間投与)において、145例中9例(6.0%)に臨床検査値異常を含む副作用が報告された。その主なものは白血球数増加2例(1.3%)であった(承認時)。アレルギー性鼻炎患者を対象とした使用成績調査1582例中9例(0.6%)に副作用が報告された。その主なものは鼻出血3例(0.2%)であった(第6回安全性定期報告時)。 小児: 過半数アレルギー性鼻炎患者を対象とした臨床試験(2週間投与)において、131例中1例(0.7%)に鼻部不快感が報告された。また、12週間投与した長期試験において、61例中1例(1.6%)に発声障害が報告された(承認時)。 (1) 重大な副作用 アナフィラキシー反応: アナフィラキシー反応があらわれることがある(頻度不明<sup>※</sup>)ので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には本剤の投与を中止し、適切な処置を行うこと。注1) 海外のみで認められている副作用については頻度不明とした。

その他の使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

2014年3月改訂(第5版)



小児アレルギー性鼻炎に  
処方できるようになりました



定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

**アラミスト<sup>®</sup> 点鼻液27.5μg 56噴霧用**  
Allermist<sup>®</sup> 27.5μg 56metered Nasal Spray

フルチカゾンフランカルボンエステル点鼻液

製造販売元(輸入) グラクソ・スミスクライン株式会社  
TEL: 0120-661-207(9:00-18:00)/土日祝日および当社休業日を除く  
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル FAX: 0120-661-0712(24時間受付)

作成年月 2014年7月

本剤にはイチゴの成分は含まれておりません。

マクロライド系抗生物質製剤

処方せん医薬品<sup>※1</sup> **クラリシッド<sup>®</sup>・ドライシロップ10%小児用**

日本薬局方 クラリスロマイシン錠

処方せん医薬品<sup>※1</sup> **クラリシッド<sup>®</sup> 錠50mg小児用**

(クラリスロマイシンドライシロップ/クラリスロマイシン錠) **Klaricid<sup>®</sup>** (略号: CAM) 薬価基準収載 注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

2010年4月作成

**Abbott**

**アボット ジャパン株式会社**

製造販売元 東京都港区三田3-5-27

資料請求先: アボットジャパン株式会社 ぐすり相談室 フリーダイヤル 0120-964-930

技術提携: 大正製薬株式会社

**Abbott**

A Promise for Life

# It's EYE



RE224FJ  
2013年4月作成

**禁忌(次の患者には投与しないこと)**  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**効能・効果**  
アレルギー性結膜炎

**用法・用量**  
通常、1回1~2滴を1日4回(朝、昼、夕方及び就寝前)点眼する。

**使用上の注意**  
1. 重要な基本的注意  
重症例には本剤単独では十分な効果が得られないので、他の適切な治療法への切替えあるいはそれとの併用を考慮し、本剤のみを漫然と長期に使用しないこと。  
2. 副作用  
トラニラスト点眼液が投与された5,951例中、副作用が報告されたのは72例(1.21%)88件であった。その主なものは、刺激感・しみる22件(0.37%)、眼瞼炎12件(0.20%)、眼掻痒感12件(0.20%)、眼瞼皮膚炎8件(0.13%)などであった。(再審査終了時)

	頻度不明	0.1~5%未満
過敏症 <sup>(2)</sup>	接触性皮膚炎(眼周囲)	眼瞼皮膚炎、眼瞼炎
眼	結膜充血、眼瞼腫脹	刺激感、掻痒感

注:発現した場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。  
※その他の使用上の注意につきましては、製品添付文書をご参照ください。

アレルギー性結膜炎治療剤

薬価基準収載

## リザベン<sup>®</sup>点眼液0.5%

RIZABEN<sup>®</sup> Eye Drops 0.5% 日本薬局方 トラニラスト点眼液

製造販売元

**キッセイ薬品工業株式会社**

松本市芳野19番48号 <http://www.kissei.co.jp>  
資料請求先:くすり相談センター 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号  
TEL:03-3279-2304

ロイコトリエン受容体拮抗剤

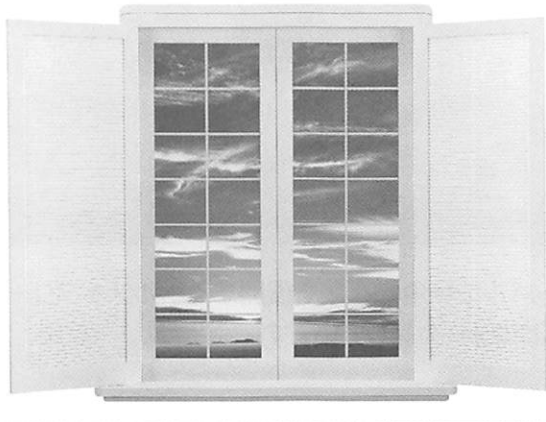
一気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

# オノン<sup>®</sup>カプセル 112.5mg

ブランドカスト水和物カプセル

ONON<sup>®</sup>

薬価基準収載



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、  
詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先

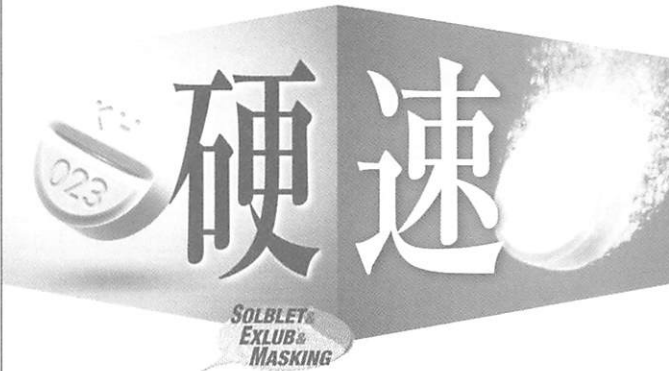
**ONO**

**小野薬品工業株式会社**

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

2009年10月作成

KYOWA KIRIN



# アレロックOD錠は 協和発酵キリンの 独自技術で誕生しました。

\*: SOLBLET®(特許3797387)、EXLUB®(特許3993768、特許2681601)、マスキング技術(特許4803686)等



アレルギー性疾患治療用  
〈薬価基準収載〉  
**アレロックOD錠** 2.5  
ALLELOCK OD Tablets オロパタジン塩酸塩口腔内崩壊錠

製造販売元  
**協和発酵キリン株式会社**  
東京都千代田区大手町一丁目6番1号 〒100-8185  
www.kksmile.com

〔資料請求先〕

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

成人:アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う痒痒(湿疹・皮膚炎、痒痒、皮膚掻痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑)

小児:アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症)に伴う痒痒

【用法・用量】

成人:通常、成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。  
小児:通常、7歳以上の小児には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

〔用法・用量に関連する使用上の注意〕  
本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜からは吸収されないため、唾液又は水で飲み込むこと。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 1) 腎機能低下患者〔高い血中濃度が持続するおそれがある。〕 2) 高齢者 3) 肝機能障害のある患者〔肝機能障害が悪化するおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意 1) 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。 2) 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。 3) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。 4) 本剤の使用により効果が

が認められない場合には、溘然と長期にわたり投与しないように注意すること。

3. 副作用(成人)アレロック錠(普通錠)の承認時及び使用成績調査・特別調査(長期使用調査)において9,620例中、副作用及び臨床検査値異常の発現率は1,056例(発現率11.0%)で、1,402件であった。主な副作用は眠気674件(7.0%)、ALT(GPT)上昇68件(0.7%)、倦怠感53件(0.6%)、AST(GOT)上昇46件(0.5%)、口渇36件(0.4%)等であった。(再審査終了時)

〔小児〕アレロック錠(普通錠)の国内臨床試験において417例中、副作用及び臨床検査値異常の発現率は62例(発現率14.9%)で、78件であった。主な副作用は眠気22件(5.3%)、ALT(GPT)上昇18件(4.3%)、AST(GOT)上昇8件(1.9%)、白血球増多7件(1.7%)、γ-GTP上昇3件(0.7%)等であった。(承認時)

1) 重大な副作用

劇症肝炎、肝機能障害、黄疸(頻度不明)、劇症肝炎、AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、LDH、AI-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

●その他の「使用上の注意」は製品添付文書をご参照ください。

2014年5月作成 再登録商標



© Elle Bernager / Stone / Getty Image

サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして患者さんのニーズにフォーカスしています。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー www.sanofi.co.jp







ロイコトリエン受容体拮抗剤  
気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤 薬価基準収載

**キプレス錠5mg**  
**キプレス錠10mg**

KIPRES Tablets 5mg KIPRES Tablets 10mg

一般名: モンテルカストナトリウム (JAN)

●効能・効果、用法・用量、用法・用量に関する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等につきましては添付文書をご参照下さい。

製造販売元

**杏林製薬株式会社**

東京都千代田区神田藤台2-5 (資料請求先: ぐり情報センター)



処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤 薬価基準収載

**ナゾネックス®点鼻液50μg**  
56噴霧用/112噴霧用

モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液 **Nasonex**

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細につきましては添付文書をご参照ください。



製造販売元 (資料請求先)

**MSD株式会社**

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア  
<http://www.msdd.co.jp/>

2013年5月作成 NSX13AD034-0518



マクロライド系抗生物質製剤〔薬価基準収載〕

処方せん医薬品<sup>※</sup> クラリスロマイシン製剤

日本薬局方 クラリスロマイシン錠

**クラリス<sup>®</sup>錠 200**

日本薬局方 クラリスロマイシン錠

**クラリス<sup>®</sup>錠 50小児用**

**クラリス<sup>®</sup>ドラインロップ10%小児用**

注) 注意一医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」は添付文書をご参照ください。



発売〔資料請求先〕

**大正富山医薬品株式会社**  
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1



製造販売

**大正製薬株式会社**  
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1

CLA4 2009.7

# COOL and STRONG

いざ、アレルギーに負けない日本へ!

TM & ©TOHO CO., LTD.

**【禁忌】**(次の患者には投与しないこと) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

## 【効能・効果】

アレルギー性鼻炎  
蕁麻疹、皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚掻痒症)

## 【用法・用量】

通常、成人にはペボタスチンベシル酸塩として1回10mgを1日2回経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

### <用法・用量に関連する使用上の注意>

OD錠5mg、OD錠10mgは口腔内で速やかに崩壊することから唾液のみ(水なし)でも服用可能であるが、口腔粘膜からの吸収により効果発現を期待する製剤ではないため、崩壊後は唾液又は水で飲み込むこと。

## 【使用上の注意】

### 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

腎機能障害のある患者

(本剤の血中濃度を上昇させることがある。また、高い血中濃度が持続するおそれがあるので、低用量(例えば1回量5mg)から投与するなど慎重に投与し、異常が認められた場合は減量、休薬するなど適切な処置を行う。)

### 2. 重要な基本的注意

- 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。〔「臨床成績」の項2参照〕
- 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイドの減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。
- 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終

了時まで続けることが望ましい。

- 4)本剤の使用により効果が認められない場合には、本剤と長期にわたり投与しないように注意すること。

### 3. 副作用

臨床試験(治験〔普通錠〕):総症例1,446例中、副作用が報告されたのは137例(9.5%)であり、その主なものは、眠気83件(5.7%)、口渇16件(1.1%)、悪心12件(0.8%)、胃痛7件(0.5%)、下痢7件(0.5%)、胃部不快感6件(0.4%)、倦怠感4件(0.3%)、嘔吐4件(0.3%)等であった。また、臨床検査値異常として本剤との因果関係が疑われたものは、総症例1,225例中64例(5.2%)で、主なものは、ALT(GPT)上昇1,209例中25件(2.1%)、尿潜血1,020例中11件(1.1%)、 $\gamma$ -GTP上昇1,130例中

10件(0.9%)、AST(GOT)上昇1,210例中8件(0.7%)等であった。

使用成績調査(普通錠)(承認時~再審査期間終了時):総症例4,453例中、副作用が報告されたのは89例(2.0%)であり、その主なものは、眠気59件(1.3%)等であった。

小児特定使用成績調査(普通錠):小児患者(5歳以上~15歳未満)1,316例中、副作用が報告されたのは14例(1.1%)であり、その主なものは眠気5件(0.4%)、口渇2件(0.2%)、蕁麻疹2件(0.2%)等であった。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

- その他の使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。
- 使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。

選択的ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

薬価基準収載

**タリオン**<sup>®</sup>錠5mg・10mg  
OD錠5mg・10mg

TALION<sup>®</sup> Tablets 5mg・10mg (ペボタスチンベシル酸塩製剤)

TALION<sup>®</sup> OD Tablets 5mg・10mg (ペボタスチンベシル酸塩口腔内崩壊錠)

処方せん医薬品 (注意 - 医師等の処方せんにより使用すること)

提携

宇部興産株式会社



製造販売元(資料請求先)

田辺三菱製薬株式会社

大阪市中央区北浜2-6-18

2014年10月作成



この続きは **YouTube** で。

ザグザグ 花粉



ドラッグストアザグザグのテレビCMは、岡山 / 香川 / 広島県で絶賛放映中。

YouTube では過去作品も含めてすべて公開しています。

ぜひ YouTube で [zagzagofficial](#) のチャンネルをご登録ください。

「ちょっと気になる♪ドラッグストア ザグザグ」は、岡山県を中心に中四国・近畿地方7県にドラッグストア・調剤薬局を127店舗展開中。(2014年10月現在) お客様へ専門性の高いサービスを提供するために全店調剤薬局併設を目指しています。また、総合的な健康づくりをサポートするためにパワーリハビリを中心としたデイサービス施設「ザグスタ」も展開しています。

詳しくは [ザグザグHP](#) をご覧ください。 <http://www.zagzag.co.jp/>

ザグザグ

